

教育ボランティア ガイドンスブック

2026



教育ボランティアガイドスブック 2026
完全版



教育ボランティア学生運営委員会
インスタグラム



@KYOUIKUV_YU

教育ボランティアで、子どもや学校を知ろう

～教育ボランティアのすすめ～

教育学部長 長谷川 千秋

学生のみなさんは、教育ボランティアがいつから始まったか、知っていますか。

教育ボランティアの前身となる活動が始まったのは2003年のことです。当時は「放課後学習チューター」という名称だったそうです。放課後に限定した活動だったのでしょうね。2010年には、本冊子「教育ボランティアガイダンスブック」が発行されるようになりました。

現在、2025年度の活動では、放課後の学習支援だけでなく、小中学校等での授業の指導補助、部活動の支援、進路アドバイス、自学自習講座での支援、学童保育、児童養護施設や児童相談所での支援、県立科学館や大学図書館附属子ども図書室での活動など、内容も場所も多岐にわたっています。2024年度からは、高校での総合的な学習の時間の補助や、ICT支援学生の研修と附属小中学校への派遣も始まっています。このように、教育ボランティアは、みなさんの先輩たちが積み重ねてきた歴史と、その長い時間の中でしっかりとした運営体制が形作られています。

教育ボランティアの良いところはたくさんありますが、その中で私が素晴らしいと思っていることを3点紹介したいと思います。

1点目は、学生運営委員会が運営に関わってくれていることです。初めてボランティアに入る学生対象の「教育ボランティア・スタートセミナー」（4月）は、学生運営委員会の発案で始まりました。活動はじめの「教育ボランティア・ガイダンス」、活動のしめくりとなる「教育ボランティア報告会」も当委員会が運営しています。報告会での学生同士の活動報告・意見交換は、自身の活動をふりかえるよい機会となるでしょう。本冊子巻末の「教育ボランティアニュース」も学生運営委員が執筆・編集している号があります。

2点目は、自分で活動内容を選べることです。受け入れ先との調整により活動日時も選ぶことができます。具体的にどんな活動をするのか、「教育ボランティア・ガイダンス」で情報を得てください。授業の時間割を組む際に、4年間の時間割バランスを考えながら教育ボランティアで活動する時間も作っておくと、教育ボランティアに入りやすくなります。

3点目は、子どもたちと関わる時間を持つことです。教師がどんな風に子どもと接しているか、子どもの見せる反応はどんな風か知っておくことは、後の教育実習で確実に生きてきます。ボランティア先の素敵な先生方や子どもたちから学ぶことは多いはずです。教育実習後には、実習経験が糧となり、より深い活動ができる場面が増えてくることでしょう。

大学での授業も大切にしながら、ぜひ教育ボランティアをはじめてみてください。また、学生運営委員会に入ることも検討してみてください。主体的に自ら学ぼうとする姿勢は、あなた自身の中にある可能性が芽をひらくきっかけとなり、学んで得たものは、あなた自身のものごとの見方・考え方を更新し、これからの人生を豊かにしてくれるはずです。

教育ボランティアは「問い」を育てる場

教育ボランティア委員会委員長 大野 歩

このページを開いてくださった皆さん、教育ボランティア活動に関心を寄せてくださって、ありがとうございます。教育ボランティア委員会委員長として、心より歓迎申し上げます。

近年、学校現場や地域社会の教育課題は多様化・複雑化しており、子どもたちの学びを支える人材の必要性は高まっています。大学生である皆さんが教育ボランティアとして地域の教育現場で活動することは、子どもたちにとっても、皆さん自身にとっても、計り知れない意義を持つものと確信しています。

教育を学ぶ皆さんにとって、教育ボランティアは単なる「実地体験」に留まりません。私は、この活動を、皆さんが現場での出会いや葛藤を通して、自分自身の中に「問い」を育てる場であると考えています。子どもたちの姿に驚き、先生方の言葉に考えさせられ、自分の未熟さと向き合う。そのような生きた経験こそが、皆さんの内面に「私はなぜ教員を目指すのか」「どんな教育をしたいのか」といった根源的な問いを芽生えさせ、深めていく力となります。知識や技術だけでなく、こうした問いを持ち続ける姿勢こそが、教育の本質に近づくための羅針盤だと考えています。教育ボランティアは、その第一歩を踏み出す大切な機会なのです。

教室での学習支援、放課後の活動サポート、学校行事の補助など、様々な場面で子どもたちと関わりながら、皆さんは教育現場が抱える具体的な課題や子どもたち一人ひとりの個性について、机上では得られない「生きた知識」を学ぶでしょう。また、この活動を通じて得られる達成感や、子どもたちの成長を見守る喜びは、皆さんの人生を豊かにする貴重な経験となるはずです。さらに、教職以外の進路を考えている学生にとっても、多様な地域活動の場に触れ、コミュニケーション能力や問題解決能力など、社会で必要とされる力を育む絶好の機会となるでしょう。

本ガイドブックには、活動を始めるにあたって必要な情報が網羅されています。活動の心構え、申込方法、注意事項、そして先輩たちの体験談など、充実した内容となっていますので、ぜひ熟読して、活動への理解を深めていただきたいと思います。

活動に取り組むにあたり、皆さんに心に留めておいていただきたい大切なことがあります。まずは、子どもたちの思いを尊重すること。子どもたちは、精いっぱい生きる経験を重ねてきた、一人の人間です。その子の世界に触れ、のぞいてみようとする姿勢を築く努力を心がけてください。また、現場では担当の先生方の指導を謙虚に受け止め、組織の一員として、責任ある行動を心がけてください。そして、継続的に活動に取り組みましょう。子どもたちや教職員の方々との関係は、時間をかけて築かれていくものです。

活動の中で困ったことや悩みが生じた場合には、決して一人で抱え込まず、大学の担当教員や受け入れ先の責任者に相談してください。私たちは、皆さんの活動を全面的にサポートする体制を整えています。

教育ボランティアの経験は、必ず皆さんの揺るぎない糧となります。現場での一つひとつの出会いと経験を大切にしながら、自分自身の中に育つ「問い」に耳を傾けてください。子どもたちの笑顔と成長、そして皆さん自身の成長を楽しみに、まずは一歩を踏み出してみてください。皆さんの積極的な参加を心よりお待ちしております。

教育ボランティア活動を始めるにあたって

本学の教育ボランティア活動は、学生による小中学校での学習指導を通じて、児童生徒の学力を向上させるとともに、教職を目指す皆さんの学びを深めるために、平成17年（2005年）からスタートしました。現在の活動は、学習指導だけでなく、学校行事・部活動の指導補助、障害のある児童生徒の支援、不登校児童生徒の支援など幅広いものとなっています。また、この教育ボランティア活動は社会参加実習として科目化されています。

1 教育ボランティア活動申込み手順

(1) 教育ボランティアガイダンスに参加する。

- ・前期（4月）と後期（10月）に開催します。
- ・教育ボランティアの受入先の方が活動内容などを説明していただきます。併せて、提出書類や申込み方法の確認をします。

(2) 希望受入先を決定する。

- ・教育ボランティア活動を通じて、何を学ぶかをはっきりさせましょう。
- ・ガイダンス時の資料、CNSでの情報、学内掲示ポスター、交流会・報告会、先輩や友達の声等から活動先の情報収集を行いましょう。
- ・どこの受入先が自分に適しているか検討しましょう。
- ・学びの目的、他の授業への影響、活動日時や場所、交通手段等から考えてみましょう。

(3) 教職支援室へ名簿登録をする。

- ・Web上から申し込んで名簿登録をします。
- ・教育学部ホームページの学部内専用サイトにアクセスし、「教育ボランティア」の中にある「教育ボランティア登録」をクリックし、必要事項を記入して送信することによって申し込みます。※詳しくは、P10～11を参照。

(4) 「保険加入確認ならびに指導教員確認書」を提出する。

- ・自分が加入している保険の種類を確認し、「保険加入確認ならびに指導教員確認書」（P12参照）に必要事項を記入します。
- ・所属コースの先生方から活動の許可をいただき、「保険加入確認ならびに指導教員確認書」に署名・捺印をしていただけてください。
- ・ガイダンス実施日から1週間以内に、「保険加入確認ならびに指導教員確認書」を教職支援室に提出します。

(5) 活動前に受入先の先生方と日程調整等の相談をする。

- ・原則として、活動先の担当者の方から、電話・メール等で連絡があります。自分から勝手に連絡を取らないでください。

ただし、5月中旬までに連絡がない場合は、学生の皆さんが受入先に連絡を取り、具体的な相談をしてください。

※大学では事前に、受入先ごとに希望者の名簿一覧表を作成し、受入先に送付します。

- ・多くの学校等では、日程の調整等が確認されると、事前にボランティア活動を進めるにあたっての指導等が行われています。

(6) 活動を開始する。

- ・自分の学びの目的をしっかりと確認し活動を進めましょう。
- ・通年での活動は5月～2月，前期は5月～9月，後期は10月～2月を原則とします。
- ・実質的な活動のスタートは，5月中旬以降となります。

◇ 登録にあたっての補足

以下の学生は、「教育ボランティア活動申し込み手順」(3)(4)に加え、手続きが必要な場合があります。（「社会参加実習」の単位取得を希望する場合）

- ・教育学部大学院生は、「履修申請書」を教育教務に提出。（その他の単位）
- ・他学部生は、自分の所属学部の教務に「他学部聴講願」を提出。（その他の単位）
- ・特別支援教育特別専攻科の学生は、規定上単位取得はできない。活動は可能。

◇ 名簿登録の最終〆切

- ・12月の指定された日になります。
- ・この〆切は、原則として途中でボランティア募集があったものや特別な事情があったものに限ります。

2 教育ボランティアの記録・活動報告書・学びの活動記録

ただ単にボランティアの活動をしただけでは学びを深めることはできません。目標を立てて、活動で心に残ったことなどを記録にして、活動の振り返りをしてみると自己の成長や課題に気づくことができると思います。自己の学びの履歴として、少しずつ、活動記録を残してください。

下の(1)(2)は単位取得の要件であるため、入力・提出しない場合は単位取得ができません。

(1) 【キャリポ】教育ボランティアの記録

- ・学部内専用サイトから「キャリポ」にアクセスし、「教育ボランティアの記録」を1月10日までに入力します。
- ・活動前の入力、活動当日の入力、まとめの時期の入力が必要です。
- ・活動が2月まで継続する場合、2月分の活動については、見込みの計画を入力します。

(2) 活動報告書

- ・教育ボランティア活動の記録をA4版1/2ページ（45字20行）にまとめます。
- ・様式をCNSからダウンロードして作成し、データを、1月10日までに教職支援室にメールで提出します。（kyouikuv@yamanashi.ac.jp）
- ・提出された活動報告書の中から、いくつかを抽出して、次年度のガイダンスブックに「活動の報告」という形で載せます。（全員分ではない）

(3) 学びの活動記録

- ・毎回の活動時に持参し、活動日・活動時間を記録してから、受入先で印をもらいます。学生側の活動の控えとして、単位認定されるまで保管します。

教育ボランティア 学びの視点

1年～3年（入学から教育実習前）

学びの視点	具体的な学び
① 指導者や教師の仕事	指導者や先生方の働く姿
② 理想の教師像	ボランティア先や自分が出会った先生
③ 今の子どもの特徴	私の小・中学生の頃と今の子の違い
④ 育てたい子ども像	学校の教育目標、これからの時代
⑤ 学校・関係機関の役割	学校や関係機関の役割、関連
⑥ 他の学生からの学び	観察、活動、話し合い等で具体的な発見
⑦ 授業づくり・個別指導	授業構想、指導方法、教材教具・発問・板書等の工夫
⑧ 話し合い活動	話し合いの仕掛け、意欲的な学び
⑨ コミュニケーション力	課題意識をもち、先生方等との対応
⑩ 学級経営の充実	班づくり、係活動、人間関係づくりなど
⑪ 施設や教室掲示等の環境	施設・教室・校内の掲示物、花壇等
⑫ 児童生徒理解の方法	子どもとの接し方、一人一人の児童生徒の違いの理解、信頼関係づくり、
⑬ 支援が必要な児童生徒	先生からの情報、児童生徒の実態把握
⑭ 保護者・地域連携	学級・学校通信等、地域人材の活用
⑮ 自ら設定した視点	具体的な指導計画や指導の実際等

教育実習

3年～4年（教育実習後から卒業前）

学びの視点	具体的な学び
① 理想の教師像	私が目指す未来の教師像
② 目指す子ども像	子どもに身につけさせたい力と未来像
③ 身に付けるべき教師力	教育実習先やボランティア先の先生方の教育実践や自己体験をもとに、教師力の再考、現段階で私自身が磨きをかけるべき教師力。
④ 授業づくりの方法や個別の学習指導のあり方	教育実習での課題を踏まえた、ボランティア先での授業づくりや個別指導のあり方。単元全体を見通した授業計画、授業（指導）構想、教材教具、発問、板書、話し合いやグループワーク等の工夫等。
⑤ 児童生徒理解の方法	教育実習での児童生徒理解の振り返り、より深い児童生徒理解の方法の追及。
⑥ チーム学校、関係機関との連携	学校教育の諸課題等に対する学校校内外の連携
⑦ 特別支援教育の進め方	交流学級の経営 児童の実態把握
⑧ 自ら設定した視点	具体的な指導計画や指導の実際等

- 自ら「学びの視点」を設定し、教育ボランティア活動に取り組みましょう。特に、キャリアポ「教育ボランティアの記録」を作成する際に、上記の「学びの視点」を参考に、「教育ボランティア活動を進めるにあたっての決意(目標)」を入力してください。
- 上記に挙げた参考例をもとに「教育ボランティアの記録」を作成し、各項目で自分自身が学んだ見方考え方や、実践して学んだことがらをまとめておくことが、教師力の基礎を高めていくことにつながっていきます。

3 ガイダンス・スタートセミナー・報告会

(1) 教育ボランティアガイダンス

- ・日時と会場 前期：4月15日（水）4限 N-11・M-11 教室
後期：10月14日（水）4限 N-11・N-12 教室
- ・内容 受入先や教育ボランティア委員会，学生運営委員会からの説明と指導及び提出書類の確認等

※活動希望者は全員出席してください。

※特別な事情で欠席せざるを得ない場合は，教職支援室に相談してください。

(2) 教育ボランティアスタートセミナー

- ・日時 4月8日（水）3限
- ・会場 N-11 教室
- ・内容 教育ボランティア活動体験発表，受入先の先生のお話，グループ協議

※教ボラ初心者の1,2年生向けのセミナーです。

教ボラに対する疑問や不安を解消し，教ボラに対する理解を深めましょう。

(3) 教育ボランティア報告会

- ・日時 12月9日（水）4限
- ・会場 N-11・N-12 教室
- ・内容 教育ボランティア活動体験発表，グループ協議，指導講評

※単位取得希望者は，全員出席です。出席しないと単位取得ができません。

※特別な事情で欠席せざるを得ない場合は，教職支援室に相談してください。

※ガイダンス・スタートセミナー・報告会への出席や参加は，単位取得に必要な時間数のうちの1時間にカウントされます。

・受付時の名簿記入によって，出席を確認します。

※(1)～(3)は，いずれも教育ボランティア学生運営委員会によって運営されます。報告会での体験発表については，学生運営委員会から依頼します。依頼されたら，快く引き受けてください。

4 活動を進めるにあたっての留意点

(1) 活動先の選択にあたっては，様々な視点から検討しましょう。

- ・教育ボランティア先で何を学びたいのか。
- ・対象は小学生か中学生か，特別支援を必要とする児童・生徒か。
- ・活動内容は，授業中の支援か，放課後の学習支援か，学校行事等の補助か。
- ・交通手段をどうするのか。
- ・大学内の授業に支障をきたさないか。
- ・平日か，土日等を活用するのか。

(2) 受入先から特別に指示がない限り，教育実習同様，きちんとした服装・頭髪・態度で臨みましょう。

(3) 受入先と訪問日を確認し，絶対に無断欠席をしないようにしましょう。

・万が一，訪問できない事情が生じた場合には，事前に受入先担当者に必ず連絡を取ります。

※緊急対応マニュアル参照

- (4) 受入先の指導担当者等の指導のもとに活動しましょう。
 - ・活動中に何らかのトラブルが発生したり、巻き込まれたりした場合は、必ず受入先の指導担当者に連絡してください。
- (5) 暴力・体罰・児童の心身を傷つける言動や差別発言等は絶対にしません。
- (6) 活動中に知り得た児童・学校・学級・教職員・保護者等に関する情報を他者に漏らさないよう注意しましょう。活動終了後も同様です。（評価物も持ち帰らない。）
- (7) 児童や先生方等の信頼を裏切らないよう、誠実な態度で活動に臨みましょう。
- (8) 家庭への電話や文書による連絡、家庭訪問は禁止です。
- (9) ボランティア活動時間以外に児童との接触を持つことは禁止です。
 - ・住所、電話、mail アドレス等、連絡先を教えることや、休日等の引率、呼び出し等は行ってはいけません。
- (10) 児童はもちろんのこと、先生方等とのあいさつをしっかり行いましょう。
 - ・活動の最初と終わりに「おはようございます。」「こんにちは。」「よろしくお願ひします。」「失礼します。」「ありがとうございました。」「さようなら。」「はい。」という返事、廊下ですれ違ったら会釈等しましょう。
- (11) 活動先への行き帰りの時など、交通事故には十分注意しましょう。
 - ・加入している保険について、補償内容などを必ず確認しておきましょう。学校周辺や校内の駐車場付近は徐行し、児童の急な飛び出しに注意しましょう。交通安全を最優先に考え、時間的にゆとりを持って行動するよう努めましょう。駐車車両は指定された位置に駐車しましょう。
- (12) 活動先で、ネームカードがある場合には着用しましょう。
- (13) 自己の体調管理をしっかり行う中で活動に取り組みましょう。
 - ・発熱等、体調不良の兆候が見られる場合は、無理をせず必ず医師の診断を受け、その指示に従いましょう。特に、インフルエンザに留意し、予防接種を受けた上で、活動に入る前に、手洗い・うがいを励行し、マスクの着用等受入先の指導には必ず従いましょう。また、麻疹の抗体検査を受けていない学生は、個別に保健管理センターで相談を受け、対応しましょう。
- (14) 「体調不良による欠席」「活動先への移動中の交通事故等の緊急事態の発生」「活動中の児童のケガや自分がけがをしたり体調不良になったりした場合」は、緊急対応マニュアル(P13～14)で対応しましょう。
- (15) 教科書等の教具がある場合には、指導担当者と相談し保管しましょう。
- (16) 貴重品は極力持っていかないようにしましょう。また、スマートフォンは、児童・生徒に見せないようにしましょう。
- (17) 教育ボランティア活動で困ったことがあったら、積極的に相談しましょう。
 - ・活動先では、原則として、活動日に連絡・相談・報告を行います。急を要する場合は、指導担当者（学校では担当の先生か教頭先生等）に必ず相談するようにしましょう。先生方の時間が取れない場合は、所定の連絡ノート等に記録します。その際、5W1Hに留意し、明確に記録します。時間がある場合には、その都度、担任の先生等から指導をいただきます。
 - ・大学では、随時、ボランティア委員会担当教員・教職支援室で応じます。
 - ・活動先への電話連絡は、「教育ボランティアの〇〇です」という形で連絡を取ります。メール連絡をする場合にも同様に、必ず、記名をするようにしましょう。

(18) 教育ボランティア活動に関する情報収集に心がけましょう。

- ・教育ボランティア活動に関するお知らせは、必要に応じて CNS や学内ポスター、教職支援室からのメールで行います。これらの情報にいつも目を通す習慣を付けてください。

5 社会参加実習の特性と単位取得

(1) 社会参加実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの特性

- ・教育学部学校教育課程共通専門科目（選択）の不定期実習です。
- ・学校教育課程以外の学生は、卒業要件でないその他の単位になります。
- ・活動時間は年度を越えて積算でき、1年間に1単位、4年間で最大4単位まで取得できます。

(2) 単位取得

- ・2月中旬までに、大学教員による教育ボランティア委員会（単位認定会議）を開き、受入先から提出された活動報告書、各書類の提出状況、報告会への出席状況に基づいて、単位取得について検討がなされます。

活動内容に特に問題がなく、次の3つの要件をすべて満たしているとき、教育ボランティア委員会が1単位を認定します。

- ① 45分間活動した場合を1時間とカウントし、30時間以上（実質活動時間が22.5時間以上）の活動で1単位とします。
- ② 「キャリポ 教育ボランティアの記録」「活動報告書」の両方を提出します。
- ③ 「報告会」に出席する。

(3) 単位取得にかかわる留意点

- ・ガイダンス、スタートセミナー、報告会への参加はそれぞれ1時間とカウントします。
- ・受入先より提出されるボランティア活動報告書の活動時間は、2月までの活動見込み時間としてカウントされます。3月は受入先との相談で活動は可能ですが、活動時間にはカウントされません。
- ・単位取得の要件を満たさず、単位として認定されなかった場合、カウントされた時間数は、30時間を上限として次年度に繰り越すことができます。
繰り越しは次年度までで、それ以降への繰り越しはありません。
- ・単位として認定された場合、30時間を超えた分の時間数を次年度に繰り越すことはできません。
- ・教育学部大学院生は、「履修申請書」を教育教務に提出します。（その他の単位）
- ・他学部生は、自分の所属学部の教務に「他学部聴講願」を提出します。（その他の単位）
- ・特別支援教育特別専攻科の学生は、規定上単位取得はできませんが、活動は可能です。

6 個人情報の取り扱い

(1) 学生の個人情報に関する大学側の取り扱い

【利用目的】

教育ボランティア活動をするにあたり提供された学生の個人情報は、本人への連絡、緊急時対応のみに利用されます。

【情報の提供】

原則として、外部への情報提供はしません。

受入先へ提供する情報は（学籍番号・氏名・学部・コース・学年・電話番号・活動希望時間）です。また、提供した情報は年度末に破棄するように依頼します。

(2) 活動中に知り得た個人情報の取り扱い

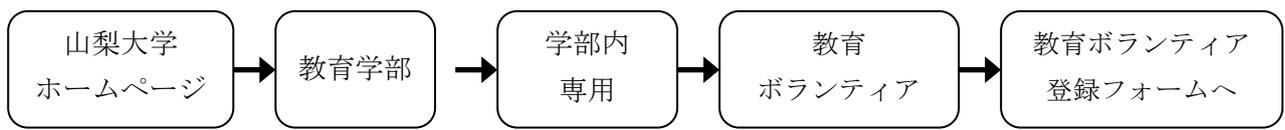
受入先等で、活動中に知り得た個人情報は決して漏らしてはいけません。活動終了後もまた同様です。

7 教育ボランティア活動への申し込み方法について

教育ボランティア活動への申し込みは Web 上から行います。

《手順》

以下の順番でアクセスしてください。



☆「学部内専用」にアクセスするには YINS-SS のログイン画面からログインする必要があります。

☆ガイダンス当日に、CNS の掲示板に登録画面へのリンクも貼ります。

【教育ボランティアに関する問い合わせ先】

☆教育ボランティア専用アドレス kyouikuv@yamanashi.ac.jp

☆教職支援室(L-120) [055-220-8748](tel:055-220-8748)

【教職支援室からのお知らせ】

教育ボランティアに関するお知らせは、CNS の掲示板で行います。

また、学生個人に連絡する場合は、CNS のメッセージで連絡します。

定期的に確認してください。

8 保険加入確認ならびに指導教員確認書について (P12 参照)

教育ボランティア活動をする場合も保険加入が義務付けられています。下記の案内は、2026年度用に新入生を対象に配布された「学生保険について」の資料です。2年生以上の皆さんもすでに入学時に下記の4つの学生保険等に加入されていることと思います。

現在、自分が加入している保険の名称・特色や補償範囲を必ず確認しておきましょう。

例えば・・・

- ☆ 自転車で活動先に行く途中、通行人にぶつかってケガをさせてしまった。保険金が支払われるのか。支払われるとしたら金額はどの程度か。
- ☆ バイクで活動先に行く途中で、自動車と接触事故をおこし、骨折し通院することになった。保険は支払われるのか。支払われるとしたら、通院した初日からか、金額はどの程度か。
- ☆ 活動中に偶然、子どもたちにケガをさせた、あるいは、自分がケガをしたとき、どの程度の金額が支払われるか。

保険内容がよく分からない場合は、加入先等に直接電話をして確かめましょう。また、「保険加入確認ならびに指導教員確認書」を必ず提出してください。(P12 参照)

学生保険について

【2026年度用】

山梨大学では入学時に、授業中、課外活動等学生生活における万一の事故及びインターンシップ・教育実習・臨床実習等での不慮の事故により賠償責任が発生した場合などに対応できる「学生保険」への加入を大学の方針としております。

山梨大学で取り扱っている「学生保険」は下記のとおり4種類あります。それぞれパンフレットを添付し、ご案内します。それぞれの保険の特色、補償範囲をよく把握してご加入してください。

なお、付帯の「賠償責任保険」にも必ず同時に加入してください。

① 「学生教育研究災害傷害保険」 + 「学研災付帯賠償責任保険」

お問い合わせ連絡先：学生支援課 TEL. 055-220-8054・8053

加入方法：「学務関係手続き」時において加入。

② 「学生教育研究災害傷害保険」 + 「学研災付帯学生生活総合保険」

お問い合わせ連絡先：学生生活総合保険相談デスク TEL. 0120-811-806

加入方法：まず、「付帯学生生活総合保険」の保険料を振込む。

その後「学務手続き」時において必ず「学生教育研究災害傷害保険」に加入すること。

その際「付帯学生生活総合保険」に加入したと申し出ること。

③ 「学生総合補償制度（こども総合保険）」

お問い合わせ連絡先：文教インシュアランス TEL. 0120-740859

加入方法：保険料の振込みによる加入。「学務手続き」時においても加入可。

④ 「学生総合共済」 + 「学生賠償責任保険」

お問い合わせ連絡先：山梨大学生生活協同組合 TEL. 055-252-4757

加入方法：保険料の振込みによる加入。「学務手続き」時においても加入可。

◎学生保険全体に関しては教学支援部学生支援課に相談してください。

担当：山梨大学共学支援部学生支援課

保険担当 055-220-8054・8053

Web 申し込み
(申請入力画面)

「保険加入確認ならびに指導教員確認書」と
同じ内容になるように入力してください。

教育ボランティア登録申請フォーム

登録内容は社会参加実習に関する事以外での目的では使用しません。
不明な点は教職支援室（L-120）にお問い合わせください。

- ・学籍番号（必須） e2301000
- ・氏名（必須） 山梨 太郎
- ・氏名フリガナ（必須） ヤマナシ タロウ
- ・学部（必須）

入 力 例

●教育学部

○その他の学部（学部・課程・コース等を入力）

◇教育学部の学生のみ、コースを選んでください。

- ・教育ボランティア活動経験（必須）
 - 有
 - 無

※携帯電話の番号をお願いします。
半角でハイフンをいれて入力してください。

- ・電話番号（必須） 090-xxxx-xxxx
- ・社会参加実習の単位取得希望（必須）
 - 有
 - 無

※活動経験のある場合は、過去の取得単位を
確認し、番号にチェックしてください。

- ・社会参加実習の科目番号（1から順に履修してください。）
 - 1 ●2 ○3 ○4

- ・加入している保険の名称（未加入の場合申請できません。）（必須）
 - 「学生教育研究災害傷害保険」＋「学研災付帯賠償責任保険」
 - 「学生教育研究災害傷害保険」＋「学研災付帯学生生活総合保険」
 - 「学生総合保障制度（こども総合保険）」
 - 「学生総合共済」＋「学生賠償責任保険」
 - その他（名称：

※通年での活動をおすすめしますが
半期だけの活動もできます。

- ・活動期間（必須）
 - 通年 ○前期のみ ○後期のみ
- ・希望受け入れ団体：（複数チェック可）（必須）

- ○○市教育委員会
- △△市教育委員会
- ○○小学校
- △△小学校
- ◇◇中学校
- ○○団体

※複数で活動する場合、それぞれの場所での活
動時間が分かるように入力してください。

- ・希望活動時間（必須）（例）○○市教委：月曜終日、△△小：火曜午前中 など
- ・補足（例）教育実習期間など自分の活動できない期間や、その他伝えておきたいこと
- ・本学指導教官氏名（必須） ※保険加入ならびに指導教員確認書にサインをもらう先生の名前

送信

教育ボランティア web 申請手続きは完了しました。

- ◇ 今回の申請について修正やキャンセルがあるときは教職支援室（L-120）にすみやかに申し出てください。

保険加入確認ならびに指導教員確認書

学籍番号：	氏名：
所属コース：	
希望受入先： (例) ○○小学校, ●●中学校	
単位取得希望： 有 ・ 無	授業科目名： 社会参加実習 (I ・ II ・ III ・ IV)

↑どちらかに○をつけてください。

↑Iから順に取得してください。

【学生保険加入確認ならびに指導教員確認書の手続きについて】

- (1) 下記の表の中から現在加入している保険の□にチェックする。
- (2) 新規に申し込む教育学部生と、教育学部以外の学生（大学院生、他学部生、科目履修生等）は、その保険に加入していることが証明できる書類のコピーを用意する。
・ 1～4については〔 〕内に示したもの、5については内容の分かるものを添付する。
- (3) 自転車・バイクの任意保険確認欄にチェックをする。
- (4) **指導教員のサインと認印**をもらう。
- (5) 教職支援室 L120 へ提出する。 (2)の該当者は保険加入の証明書をコピーすること

保険未加入者は必ず加入してください。加入がなければ活動はできません。

1. 「学生教育研究災害障害保険」 + 「学研災付帯賠償責任保険」〔保険料分担金領収書〕	
2. 「学生教育研究災害障害保険」 + 「学研災付帯学生生活総合保険」〔1と同じ〕	
3. 「学生総合保障制度（こども総合保険）」〔加入者証〕	
4. 「学生総合共済」 + 「学生賠償責任保険」〔証書〕	賠償責任のある保険への
5. その他	加入をお願いします
(名称：)

【自動車・バイクの任意保険確認欄】

教育ボランティア活動へ行く際に自動車やバイクを使用する場合は、任意保険への加入が必要です。

以下にチェックをお願いします。 **加入が無い場合は自動車・バイクの使用はできません。**

- ・ 自動車： 加入している 加入していない 使わない
- ・ バイク： 加入している 加入していない 使わない

【大学の所属コース等の指導教員確認欄】

上記について確認しましたのでボランティア活動への参加を認めます。

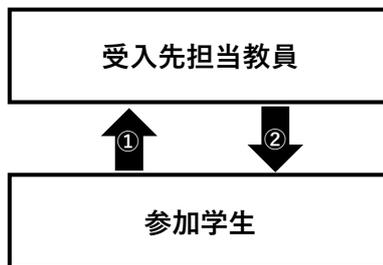
指導教員名 _____ (印)

※不明な点は教職支援室に相談してください。

9 緊急対応マニュアル

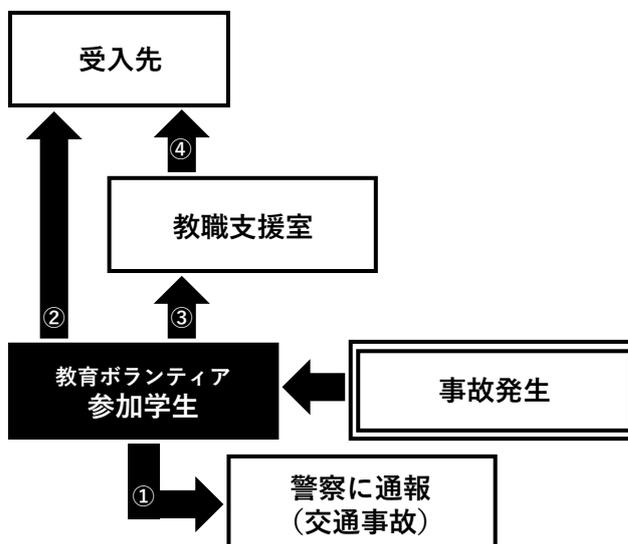
【体調不良等で欠席する場合】

- ①欠席する事情が生じたときは、速やかに受入先の担当教員に連絡する。
※担当教員が不在の場合は「欠席」の伝言を依頼する。
- ②必要に応じて、代替日等について日程調整の連絡をする。



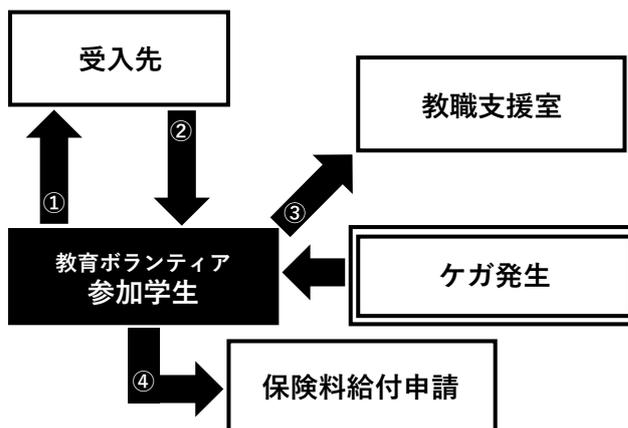
【受入先への移動中に交通事故等の緊急事態が発生した場合】

- ①交通事故の場合は、軽度の人身事故、物損事故であっても必ず警察に通報し対処する。
- ②連絡可能であれば、受入先に直ちに連絡する。
※すぐに連絡することができなかった場合は、可能になった時点で速やかに連絡する。
- ③教職支援室に報告する。
- ④教職支援室からも受入先に連絡する。



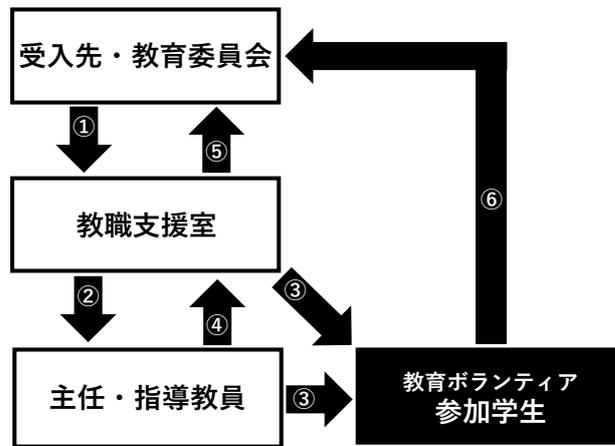
【ボランティア活動中に子どもにケガを負わせたり、自分がケガや体調不良になった場合】

- ①受入先の担当教員に直ちに報告する。
- ②担当教員の指示を受けて対応する。
- ③教職支援室に事後報告を必ず行う。
- ④必要に応じて、保険料給付申請を行う。



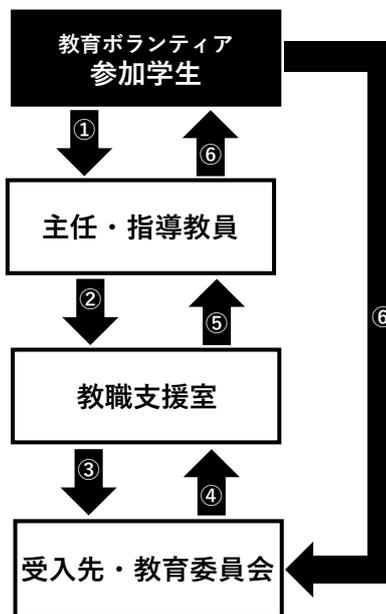
【無断欠席をした場合】

- ①受入先または教育委員会から教職支援室に連絡がくる。
- ②教職支援室から講座主任及び指導教員（学生保険加入確認書に署名した教員）に状況を連絡する。
- ③講座主任または指導教員が学生と面談して指導するとともに、今後の対応を決定する。
※状況によっては、教育ボランティア指導員も面談して指導する。
- ④主任・指導教員から教職支援室に報告する。
- ⑤教職支援室から受入先または教育委員会に指導の状況と今後の対応を報告する。
- ⑥学生が受入先や教育委員会に直接謝罪する。



【やむをえない事情で活動を辞退する場合】

- ①学生が辞退する事情を講座主任または指導教員（学生保険加入確認書に署名した教員）に事情を説明する。
- ②講座主任または指導教員は、やむをえないと判断した場合、教職支援室に連絡する。
- ③教職支援室は、受入先・教育委員会に連絡する。
- ④受入先・教育委員会から承諾を得る。
- ⑤教職支援室は、講座主任または指導教員に承諾されたことを連絡する。
- ⑥講座主任または指導教員は、学生に承諾されたことを連絡する。
- ⑦学生は、受入先・教育委員会に直接連絡する。



教育ボランティア活動にかかわって、緊急に対応が必要な事態が発生した場合は、自分で勝手に判断するのではなく、マニュアルにしたがって行動してください。

令和7年度教育ボランティア活動を振り返って

1 教育ボランティアガイダンスについて

○前期ガイダンス

令和7年4月16日(水) (153名参加) 総合研究棟 Y-31・Y-32・Y-33 教室

受入機関ガイダンス参加数 25機関

○後期ガイダンス

令和7年10月1日(水) (78名参加) N-11 教室・N-12 教室

受入機関ガイダンス参加数 12機関

2 教育ボランティアスタートセミナー・報告会について

○教育ボランティアスタートセミナー ※教育ボランティアを初めて行う学生向け

令和7年4月9日(水) (46名参加) N-11 教室

- ・受入先の先生のお話 敷島小学校 久保田 勲校長
- ・グループ協議「教育ボランティア経験者に聞いてみよう」

○教育ボランティア報告会 令和7年12月10日(水) (61名参加) N-11・N-12 教室

- ・ボランティア体験発表 森 陽希 さん(生活社会教育コース4年)
長澤 陽二郎さん(科学教育コース4年)
- ・グループ協議「教育ボランティアで学んだこと」

3 令和7年度教育ボランティアの活動実績(登録人数) (☆印 新規受入先)

1	甲府市教育委員会*	35人	授業中の指導補助, 児童生徒への支援等
2	南アルプス市教育委員会*	4人	授業中の指導補助, 児童生徒への支援等
3	甲斐市教育委員会*	11人	中学生対象自学講座, 授業中の指導補助等
4	中央市教育委員会*	5人	授業中の指導補助, 児童生徒への支援等
5	昭和町教育委員会*	5人	授業中の指導補助, 児童生徒への支援等
6	韮崎市教育委員会*	4人	授業中の指導補助, 児童生徒への支援等
7	北杜市教育委員会*	2人	授業中の指導補助, 児童生徒への支援等
8	甲州市教育委員会*	5人	授業中の指導補助, 児童生徒への支援等
9	笛吹市教育委員会*	11人	授業中の指導補助, 児童生徒への支援等
10	市川三郷町教育委員会*	2人	授業中の指導補助, 児童生徒への支援等
11	富士川町教育委員会*	3人	自習支援講座そよ風教室, 授業中の指導補助
12	富士河口湖教育委員会	3人	長期休業中の学習応援教室
13	山梨県教育庁高校教育課	10人	総合的な探求の時間における生徒への支援
14	山梨市立山梨小学校	2人	授業中の指導補助, 児童生徒への支援等
15	山梨市立日川小学校	1人	授業中の指導補助, 児童生徒への支援等
16	私立駿台甲府小学校	3人	放課後の学習支援補助, 学童保育の支援
17	私立駿台甲府中学校	10人	放課後の学習支援補助, 部活動の支援等
18	私立駿台甲府高等学校	5人	授業中の指導補助, 放課後の学習支援等
19	北杜市立甲陵高等学校	1人	放課後の学習支援, 生徒への進路アドバイス
20	児童養護施設明生学園	9人	小・中学生への個別の学習支援

21	中央児童相談所	9人	一時保護児童の学習支援、余暇活動支援等
22	山梨県立科学館	0人	実験工作教室の補助・コミュニケーション等
23	本学附属小学校	8人	授業中の指導補助，学校行事の支援等
24	本学附属中学校	9人	放課後の部活動の支援
25	本学附属特別支援学校	9人	支援の必要な児童生徒の支援，行事の補助
26	本学附属幼稚園	2人	保育における観察・記録，園行事の補助等
27	本学図書館附属子ども図書室	8人	図書室運営，読み聞かせ等
28	ICT支援学生ボランティア	7人	児童生徒の端末操作の支援等
合計		183人	

*甲府市教委（20校）＝新紺屋小，伊勢小，朝日小，里垣小，相川小，国母小，千塚小，北新小，千代田小，甲運小，玉諸小，山城小，東小，羽黒小，新田小，舞鶴小，東中，西中，北西中，あすなろ学級

*南アルプス市教委（4校）＝若草小，若草南小，落合小，白根巨摩中

*甲斐市教委（4校）＝敷島小，敷島北小，敷島南小，自学講座

*中央市教委（4校）＝三村小，田富小，田富北小，田富中

*昭和町教委（2校）＝西条小，ほたる學舎

*韮崎市教委（5校）＝韮崎小，韮崎北西小，韮崎東中，かがやき教室，ミアキス

*北杜市教委（2校）＝泉小，小淵沢小

*甲州市教委（4校）＝大藤小，東雲小，大和小，塩山中

*笛吹市教委（9校）＝石和南小，富士見小，石和西小，御坂西小，一宮北小，境川小，春日居小，石和中，御坂中

*市川三郷町教委（2校）＝上野小，六郷小

*富士川町教委（2校）＝富士川中，そよ風教室

年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
①のべ申込人数	257	263	225	259	151	224	226	171	179	183
②のべ活動者数	209	228	191	211	112	192	202	148	167	165
③活動申込人数	184	199	169	190	132	185	182	147	154	151
④活動者数	163	189	164	171	104	168	176	135	147	142
⑤受入先数	66	67	76	69	51	60	78	72	70	75
⑥単位取得者数	73	91	59	91	64	67	87	63	72	54

(令和8年2月4日作成)

参 考 教育ボランティア実績の推移

①・②…複数の受入先で活動をしている学生をそれぞれカウントした人数。延べ人数

③・④…実人数

②・④…実際に活動を行った人数。申込しただけで活動時間ゼロの学生や、ガイダンス参加のみの学生は含まない。

⑤…実際に派遣された受入先の数。市教委・町教委は派遣された受入先の数でカウント。

4 令和7年度教育ボランティア活動アンケート調査結果

教育ボランティア活動に対する学生と受入先の考えを把握し、今後の運営改善を図るために、令和7年12月に実施したアンケート調査の概要を以下に示します。調査対象は、令和7年度に教育ボランティア活動を行った学生・院生と受入機関(学校等)で、回答数は、学生40人、受入先47カ所です。

【学生・院生対象】

1 教育ボランティア活動開始時点での教育実習経験の有無

(1) 経験していた 5人 (12.5%) (2) 経験していなかった 35人 (87.5%)

(1)の内、教育実習に行った経験から、教育ボランティアをしたいと考えた者 3人

(2)の内、教育実習に行く前に教育ボランティアで教育現場の様子を知りたかった者 32人

2 教育ボランティア活動をすると決めたときに考えたこと (動機にかかわるもの)

	大いに考えた	少しは考えた	あまり考えなかった	まったく考えなかった
将来、教職を希望しており、その役に立つ	29	8	3	0
教員採用試験に有利になる	20	14	5	1
子どもに教えるという経験をしたい	25	13	1	1
子どもと接することが好きだから、したい	28	10	2	0
内容はともかく、何かボランティアをしたい	9	14	14	3
時間をもてあましていたので、何かしたい	2	9	18	11
社会参加実習の単位を取得したい	11	20	7	2

「将来、教職を希望しており、その役に立つ」「子どもと接することが好きだからしたい」など、前向きに教職を考える学生の割合が今年度も高くなっています。また、その他に考えたこととして、「現場の様子を知りたい」「今の子どもの実態を知りたい」「今どのような授業が行われているか知りたい」「他校種の経験をしてみたい」「山梨大学ならではの経験をしたい」「私立と公立の違いを知りたい」「子どもの現状を知りたい」との声がありました。教員としての資質の向上のため、教育ボランティア活動を選んだ積極的姿勢が見てとれます。

3 活動内容

○学校における授業中の活動… 26人参加 (50.0%) ≪昨年 78.8%≫

例：授業での指導補助 (TT 指導など)、特別支援教育補助

○学校における授業以外の活動… 12人参加 (23.0%) ≪昨年 46.4%≫

例：放課後の学習指導補助、部活動指導補助、学校行事の補助

○学校以外の場での活動… 14人参加 (26.9%) <<昨年 16.9%>>

例：中学生対象の自学講座、子ども図書室運営

※「学校における授業中の活動」が大きい割合を占め、多くの学生が授業を中心に支援・補助を行っています、他の活動の割合も増えています。

4 教育ボランティア活動の教育的価値（選択技法）

<回答率が多かった選択肢を挙げます。>

○子どもの生活行動面の実態、考えていた子ども像とのギャップなど、生の姿を理解できる。
(77.5%)

○様々な個性をもった子どもの存在と、それへ対応することの必要性和難しさに気づくことができる。
(75.0%)

○教育実習とは異なり、評価を伴わずに、ゆとりをもって定期的に子どもと触れ合うことができるので、教育現場や子どもの実態をよりよく把握できる。
(73.2%)

○教育実習とは異なり、評価を伴わずに、ゆとりをもって定期的に子どもと触れ合うことができるので、教育現場や子どもの実態をよりよく把握できる。
(70.0%)

○子どもとの良好な信頼関係を築くことの大切さに気付くことができる。
(65.0%)

※実際の教育現場にかかわる中で子どもの実態を捉え、指導の困難さや重要性に気づき、現場の教員や子どもから多くを学んでいる姿が伺えます。

5 教育ボランティア活動を通して感じた「教職に就くにあたっての課題」（自由回答法）主なもの

- ・児童生徒への声かけの仕方（褒め方・叱り方・注意の仕方・タイミング・学習でつまづいている子への意欲を高める声かけ）
- ・積極的なコミュニケーション（子どもとのコミュニケーション、年齢の高い子への話し方、先生方とのコミュニケーション、対話力、早口になってしまう）
- ・児童生徒への接し方・距離感（授業中立ち歩いてしまう子供への対応、適切な距離の取り方、距離が近すぎて友達のようにになってしまうこと）
- ・児童生徒理解
- ・クラスをどうまとめるか（個に応じた対応と全体への対応、様々な特性を持った子をどうまとめるか、元気すぎるクラスにどう対応するか）
- ・特別な支援を必要とする児童生徒への対応（様々な特性を持った子、授業への参加がうまくできない子など）
- ・話す力（分かりやすい、聞き取りやすい、言い換え、要点をまとめた話し方、豊富な話題提供）
- ・指導力（進路相談にのる技術や考え方）
- ・ICTの活用法
- ・教科の知識理解（自分の専門教科以外の知識の浅さ）
- ・臨機応変に対応する力

- ・教育現場の多忙さ
- ・朝に弱い

※以上のような意見がありました。

6 継続参加希望

○参加したい 33 人 ○参加したくない 2 人 ○その他(卒業などで機会がない等) 3 人

※大多数の学生が継続参加を希望しています。この傾向はここ数年変わっていません。

7 教育ボランティア活動をよりよいものにしていくための改善点や要望（自由回答法）

- ・もっと参加機会を増やしたい。
- ・定期的に学生の活動状況や相談する時間を設けてもらえるとありがたい。
→教職支援室にいつでもご相談ください。

【受入機関（学校等）対象】

(1) 教育ボランティア活動の受入機関（学校等）についての教育的価値（選択肢法）

回答率が高かった選択肢を挙げます。

- ① 教職員以外の大人と触れ合う機会がもてる。担任とは違った存在として関わることの効果が期待できる。（72.3%）
- ② 教職員よりも年齢が近いことによって、上下関係でない関わりが持てたり、若さによる情熱ある指導ができたりする。（65.9%）
- ③ 個別指導など個に応じたきめ細かい指導が可能となる。習熟度別指導や小グループ指導など指導形態の多様化が図れる。（65.9%）
- ④ 教育現場における人員不足が解消できる。（63.8%）
- ⑤ 学生の熱意や頑張りで活動が活性化する。（53.1%）

(2) 教育ボランティア活動の学生についての教育的価値（選択肢法）

回答率が高かった選択肢を挙げます。

- ① 様々な個性をもった子どもの存在と、それへ対応することの必要性と難しさに気づくことができる。（74.4%）
- ② 教師の子どもへの対応の仕方を見て、子どもとの接し方や、コミュニケーションをとることの重要性を理解できる。（74.4%）
- ③ 教育実習とは異なり、評価を伴わずに、ゆとりをもって定期的に子どもと触れ合うことができるので、教育現場や子どもの実態をよりよく把握できる。（72.3%）
- ④ 子どもの生活行動面の実態、考えていた子ども像とのギャップなど、生の姿を理解できる。（72.3%）
- ⑤ 子どもへの言葉のかけ方、褒め方・叱り方の難しさや大切さなど、子どもに対する言語的なかわりの重要性が理解できる。（68.0%）

(3) 教育ボランティア活動の「受入機関（学校等）」についての教育的価値について（自由回答法）

- ・学習支援など担任以外からもサポートしていただけることはとてもありがたい。
- ・町教育委員会の施策として、町費負担教員、学校生活支援員と、OB 教員が長期休業中の学習応援教室を受け持っている。協力できる OB 教員が小学校の先生なので、中学校の教科指導ができる人が限られている。そのため、大学生に来ていただけることは大変ありがたく助かっている。
- ・生徒が、受験や学生生活についての情報やアドバイスを得ることができる。

(4) 教育ボランティア活動の「学生」についての教育的価値について（自由回答法）

- ・特に回答ありませんでした。

(5) 教育ボランティア活動をする学生に期待すること（自由回答法）

教育ボランティア学生に対する感謝とともに以下のコメントがありました。

- ・教師としての使命感や情熱、子どもへの真っ直ぐな愛情を持ち続けてほしい。
- ・学校現場で働く多くの教職員から、教師として必要な資質や能力を学んでほしい。
- ・目的意識を持って活動に取り組み、現場での経験を将来に活かしてほしい。
- ・学ぼうという意欲を持って、積極的に活動に臨んでほしい。
- ・時間を守るなど、社会人としての最低限のマナーを守って活動してほしい。
- ・児童生徒に積極的に話しかけ、教職員ともコミュニケーションをとる力をつけてほしい。
- ・教科内外の指導に関わってもらえることができ、大変ありがたい。中学生にとっても、教育ボランティアの学生にとっても、互いに学びあえる活動にしていけるよう、教職員もサポートしていきたい。
- ・教職員以外の大人と触れ合う機会がもてる。
- ・個別指導など個に応じたきめ細かい指導が可能となる。
- ・教職を目指す学生の姿に教職員が刺激を受けたり、授業改善や開かれた授業が行われたりする。
- ・活動を通して、社会人に必要なスキル（報告・連絡・相談・判断 等） やコミュニケーション力を磨いてほしい。教員として子どもたちのために何ができるのかという視点を大切にしてほしい。そして何より子どもと共に学んでいきたいという姿勢が必要不可欠であるので思いの部分も大切にしてほしい。
- ・ボランティアの経験を生かし、山梨県を中心に教員として活躍してくれることを願っている。
- ・私たち教員の目の届かないところで、小さな思いを抱いていたり、声にならない声をあげている子供たちがいます。子供たちの目線に近い学生の皆さんには、そうした子供たちと積極的に関わることで、私たちには話してくれないようなことも引き出せることでしょうか。今学校に必要なマンパワーは十分ではありません。ぜひ、教職課程を専攻されているすべての学生さんに希望をもって教職の道へ進んでくれることを期待しています。
- ・現場の教員と積極的に自分から交流してほしい。必ず得るものはあるはずですよ。お客さんになってしまうともったいないと感じました。

- ・子ども達のことが大好きで、一緒に勉強をしたり話したりと、明るく笑顔で寄り添っていただける方なら大歓迎です。子ども達や職員と積極的にコミュニケーションをとり、現場の教員とは違った立場で、学生ならではの魅力や視点をいかして、一緒に子ども達をサポートしていただきたいです。言葉や礼儀も大切にしていただけるとありがたいです。
- ・実際の教育現場を体験することで、自身の成長に繋げること。
- ・学校現場の人員不足や多忙化の解消の一助になること。
- ・積極的に子どもたちに話しかけ、子どもたちの気持ちを知ってほしい。また教職員ともコミュニケーションを図り、先生方が考えていることや思い、技術などを吸収して行ってほしい。
- ・担任だけではなく、たくさんの目でサポートしていくことは、児童にとっても教職員にとっても、とてもありがたい存在です。そうした中でこのように教育ボランティアとして各校へ学生を派遣していただけることは大変ありがたく思っています。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。
- ・かがやき教室は、様々な理由で学校に登校することが難しい子が通室してくる。その児童生徒との関わりを通して、個々への言葉かけ、寄り添い方、指導法などの支援の方法について理解を深め、今後の活動に生かしてほしい。
- ・積極的に学びを実践する姿勢
- ・学生ならではの企画力と実践力
- ・振り返り後の成長
- ・実際に教育現場で教育に携わることで、「子供とふれあうことの楽しさ」「教員として働くやりがい」などを感じてもらい、将来、教師として働く意思を高めてもらいたいです。
- ・大変な現場だと思いますが、ボランティアを通じて現場に対する理解を深めて、ぜひ教師になってほしいと思います。
- ・学校の多忙さを中心に社会で大きく取り上げられ、どうしてもマイナスのイメージをもってしまいがちな職業ですが、教師という仕事のすばらしさを間近で感じ取ってほしいと思います。
- ・学校現場で、子どもたちと学習や生活を共にすることや直接教員の仕事を見ることで、子どもたちの成長や教員としてのやりがいを感じ、ぜひ教職の道をめざしてほしいと願っています。子どもたちや教職員にとっても教育ボランティアの学生の方々が来てくれることはとてもありがたいと感じていますので、今後も熱意を持った学生さんの活動を期待しております。
- ・教師の補助や授業における個別指導・支援を通して、個別のつまずきの解消や学習意欲の向上につながると同時にそれが学生のみなさんの実体験を通じた学びになることと思います。若い情熱ある姿に接することで、学校の活性化につながることを期待しています。
- ・今後も幅広く学んでもらえればと思います。
- ・子供たちはボランティアの方々と関わることに對して喜んでます。自分なりの視点をもって来校してくれればと思います。

- ・子どもたちと接する喜びを味わってほしい。大変さを感じることも多いかもしれないが、子どもたちと触れ合うことを、教師を目指すためのモチベーションにしてほしい。多くの学生に教師という仕事のやりがいと楽しさを経験してもらいたい。
- ・学生に期待することよりも、大学に期待することを書きます。教員不足は現場をあまりにも知らないことに原因の一端はあると思います。教育学部に入学した1年よりボランティアという形態ではなく単位と紐づけてほしいと思います。学校だけでなく学童など子どもにかかわる様々な施設に長い期間受け入れていただくことで現実を知ったり希望の意思が固まったりすると思います。長期間継続的に受け入れていただくこと、そしてそれを単位付けしていただけると他大学と同様になると思います。ぜひそのような履修の在り方をお願いしたいです。
- ・学校現場で子供と触れ合う経験を通して、教職への関心を深め、将来は教師を目指してほしい。
- ・定期的に活動することによって、ボランティアと生徒・教職員の信頼関係が築かれ、様々な場面での活躍ができるものと考えます。
- ・教師という素晴らしい職業を実感して、ぜひ教師を目指してください。
- ・教育ボランティアを通して、社会人・大人としてのマナーを学び、子供たちとふれあい、教員の仕事ぶりを見ることで教員の魅力を感じ、自分の一生の仕事として選択してくれることを願っています。
- ・実習を通して教員としての資質向上と自分自身の強みを見だし、私たちの同僚として一緒に働く道を選んでほしい。
- ・そよ風教室での活動を通じ、教えることの楽しさや難しさ等を実感してもらい今後に生かしてほしい。
- ・貴校の取組に大変感謝します。教員が減る中で、このような体験から教員を目指す学生が増えていくように思います。また、学生のうちに関わることで、実際教員になってから役に立つと思います。長期休業中だけで短期の実施、距離が離れている場所での実施ですが、参加してくれた学生に感謝します。地域の学生が地元の子どもたちのために教員になって一緒に働いてほしいです。
- ・ボランティアの目標の一つに、「教員の普段の仕事から魅力を1つでも多く感じることを」掲げ、生徒、教職員、学校運営等をよく観察することを期待したいです。
- ・生徒の学ぶ姿を見る中で、生徒が何に困っているのか、どこに困っているのかを理解し、伴走支援が一つでも多くできることを期待しています。
- ・子どもに近い立場として、話をしたり聞いたりして子どもたちと積極的に関わってもらえることがありがたいです。多くの目で子どもたちを見守ったりサポートしたりすることで、子どもも大人も新たな気づきが得られると思っています。
- ・教育ボランティア活動を通して、教師の魅力を知っていただきたいと思います。そして、将来、教育現場で活躍していただきたいです。
- ・教育実習とは違い、学生が「生」の教育現場を知る機会としては、良い機会だと思います。学生の負担にならない範囲で継続をお願いいたします。
- ・各学校の多様な取り組み、生徒の様子に触れることができる貴重な機会であるので、積極的に参加してほしい。

- ・みなさんが思っている以上に、教育現場では、学生さんたちの力を求めています。また、みなさん自身も、教育実習や座学では身につけられない力を、このボランティア活動で身につけることができるはずです。みなさんに期待しています。
- ・学習面の支援に限らず、個別での環境の中で、自分を大切にしてもらえている体験で生活を送れるようにしていきたい。
- ・毎年、大勢の方に参加をしていただき、とてもありがたく思っています。次年度も積極的に参加してもらえると嬉しいです。
- ・教職を目指している学生が、実際の教育現場に携わることで、様々な生徒がいることを理解し、様々な対応の仕方があることを学んでいただきたいです。
- ・教育ボランティアを通して学べることは、教育の場面に限らず、皆さんの将来の進路や社会生活の中でも必ず生きてきます。相手の立場に立って考える力、状況に応じて工夫する柔軟性、うまくいかない中でも粘り強く関わり続ける姿勢は、どの分野でも求められる力です。皆さん一人ひとりの経験が、誰かを支え、社会をより良くする力になることを期待しています。

5 学生運営委員会の活動

学生運営委員会は、学生が教育ボランティア活動を自主的に運営することを目的に、平成22年度から組織されました。活動内容としては、教育ボランティアガイダンス・教育ボランティアスタートセミナー・教育ボランティア報告会の企画・運営、そして教育ボランティアガイダンスブックの編集を行っています。教育ボランティアの活動の内容を発信し、多くの人に周知してもらうとともに、教育ボランティアを実際に行っている方へのサポートを目標として活動を行っています。

教育ボランティア活動だけでなく教育ボランティア学生運営委員会に参加することで、別の視点から教育ボランティア活動を考えることができます。また、組織の中で大きな行事を企画し、最後までやり遂げるということは大学生活の中で貴重な体験として自分の財産になると思います。詳細については、「学生運営委員から」のページをご覧ください。

6 受入先訪問

令和7年度は、大学教員からなる教育ボランティア委員会の委員が、受入先関係機関を訪問しました。7月に北杜市立泉小学校を訪問しました。詳細については教育ボランティアニュースをご覧ください。

今年の教育ボランティアの活動を振り返って

障害児教育コース 4年 塚田 優太

今年度は前期・後期を通して甲府市内の公立小学校で活動しました。主な活動内容は、ベトナム籍児童に対する翻訳支援、特別支援対象児童への学習・生活面での指導、そして各学級における授業援助です。学年や児童の実態に応じて関わり方が変わるため、毎時間が学びの連続でした。

最も大きかった学びは、公立小学校の教育活動の仕組みや、児童の多様な実態について理解をさらに深められたことです。4年次は大学での授業数が少なくなり、以前よりも長い時間を学校現場で過ごせたことで、担任の先生方がどのように学級を運営し、日々の支援を組み立てているかを間近で見ることができました。また、児童と関わる時間も増え、一人ひとりの性格やつまづき、成長の過程をより丁寧に把握することができました。さらに、プール指導における安全確保や運動会の練習補助、外国籍児童への翻訳支援など、多様な活動にも関わりました。特に翻訳支援では、言語が異なる子どもの不安を和らげながら、安心して学習に参加できるよう支援する必要があると、改めて「分かること・伝わること」が学習意欲に直結することを実感しました。

また、今年度は、許可を得て卒業研究とも関連づけながら活動を進めました。特別支援学級も見させていただいたことで、特別支援教育の指導方法や教材の工夫、支援員との連携のあり方など将来、特別支援学級を担当する際に活かせるような非常に貴重な学びとなりました。

4年間を通して教育ボランティアに参加したことは、私にとって大きな財産となりました。児童と関わる喜びや難しさ、学校現場で働く教員の姿勢、そして特別支援の視点の重要性など、多くの学びを積み重ねることができました。今後教員として働く際には、これまでの経験を土台として、児童一人ひとりに寄り添いながら指導していきたいと考えています。

新発見した教育者のやりがい

生活社会教育コース 4年 原 朋伽

私は1年間、蕪崎市にあるNPO法人が運営する青少年育成センターMiacisで活動を行いました。本施設は、中学生・高校生の地域の第3の居場所とよばれており、放課後や休日に自由に時間を過ごせる中学生・高校生のための児童クラブのような場所です。私は中学生・高校生と4つの関わり方をしました。1つ目はボードゲームや卓球、テレビゲームなどで一緒に遊ぶことです。2つ目は中学生・高校生の悩みを聞き、相談にのることです。3つ目は中学生・高校生の「やってみたい」ことを実現できるようにサポートすることです。4つ目はMiacisのイベントのお手伝いです。

私が印象に残ったことは3つ目の関わり方です。絵を描くことが好きな高校2年生のNちゃんが、蕪崎市市制祭で似顔絵を描くブースの出店に初挑戦しました。私は会計係となり、お客様とのお金の受け渡しを行いました。似顔絵を描くことに集中して欲しい、Nちゃんの挑戦を環境づくりで支えたいという想いでサポートしました。終了後、「とっても楽しかったです！こんなに描いて欲しいと言われて驚きました。」と充足感に満ちた顔で言っていたことがとても記憶に残っています。さらに、「ともかさんのおかげでスムーズにできました。お礼に似顔絵を描きます！」と満面の笑みで私の似顔絵を描いてくれました。私は嬉しく幸せになり、その絵は今でも私のスマートフォンの壁紙にしています。Miacisの教育者の方より「Nちゃんの初挑戦を成功で終えたことはNちゃんにとって大きな成功体験になり、これからの進路選びや次に挑戦しようとなったときに大きな糧となる。」といわれました。

この経験を通して、私は教育に対して新たなやりがいを見いだすことができました。今までは「わからない」が「わかった」に変わる瞬間にやりがいを実感し、新たに「できるか不安」が「できた、やってよかった」に変わる瞬間も、とてもやりがいのあるものだ実感することができました。

3校種それぞれの支援

山梨県小学校教員養成特別教育プログラム 4年 山本 航世

今年度は小学校、中学校、高等学校の3校種でボランティアを行った。3校種でボランティアを行った理由としては、各校種における児童生徒の発達に目を向けて、それぞれの校種の特徴を感じると同時に、校種間の接続を考えるきっかけとするためであった。また、子どもたちの成長の様子を横断的に見て、見直しをもって支援にあたりたいと考えたためである。

小学校のボランティアでは、主に高学年の算数の授業に入ることが多かった。授業の理解度や困難さが学級内でも少しずつ大きくなってきている中で、一斉授業のためになかなか担任の先生が個々の支援にあたりきれない状況があった。そのため、困っている児童と一緒に考えることや、担任の先生が注意して解くように指示した箇所を見て回るなどの支援を行った。児童からは「算数の神」と呼ばれるようになった。また、算数以外の科目や運動会の練習など、さまざまな経験をさせていただいて、小学校教員のやりがいを見ることができた。

中学校では3年生の授業に入ることが多かった。1年生の頃から関わっている生徒たちが進路に悩んでいる姿を見て成長の早さを感じ、3年生としても一年間で大きく成長した様子が見られた。授業の補助ではやはり小学校段階の計算やルールが分かっていない生徒が見られ、苦悩し、諦めてしまっている者も見られたため、基礎となる小学校段階の学びを着実に身につけておく必要があると強く感じた。

高校では、授業の補助のほかに事務仕事の手伝いを行った。また、進路指導にも関わることがあり、進路実現のために大学を調べたり、自分自身を知ろうとしたりする様子が見られた。

どの学校の子どもたちからも「ここの学校の先生になってよ」と言われ、教員になる意欲がこれまで以上に強まった。4年間のボランティアで得た経験を糧に4月から教壇に立ちたい。

教育ボランティア活動を通して

芸術身体教育コース 4年 齊藤 愛梨咲

私は3年次の教育実習や教育ボランティアでの経験を通して「教員になりたい」という思いが強まり、教壇に立つ前に現場の様子をより深く知りたいために、昨年度に引き続き北杜市内の小学校で活動しました。昨年度関わった児童の中には私のことを覚えてくれていて「先生久しぶり！」と声をかけてくれる児童もいました。名前を呼んで返すと「え！先生名前覚えているの？」と、児童の嬉しそうな反応が見られました。こちらが児童のことを理解していると示すことで、児童も心を開いてくれ、たくさん話してくれました。自分のことを理解してくれる先生は、親しみやすく話しやすいと思うので、児童との信頼関係を築く上でも児童理解を深めることは大切なことだと改めて感じました。

授業補助では、1～6年生までの幅広い学年の児童と関わり、学年に応じたコミュニケーションの取り方を学びました。特に1年生の支援では、授業中に立ち歩いたり教室を飛び出したりする児童もいて、現場のリアルな課題に直面しました。そうした児童に対し、「〇〇さんのかっこいいところ見せて」「先生にやり方教えて」などの肯定的な声かけを行うことで、席に戻り学習に取り組み始める姿が見られることもありました。児童の気持ちに寄り添った声かけを行うことで、児童が「やってみよう」という気持ちになり、行動が変わる場面を見ることができました。児童の行動の背景まで理解し、その児童に合わせた言葉を選ぶことの大切さを強く感じました。

教育ボランティアを通して、児童との関わり方やコミュニケーションの取り方、児童の気持ちに寄り添った声かけなど多くの学びを得ることができました。また、教員の楽しさや、やりがいを実感できる貴重な経験にもなりました。この経験を来年度から始まる教員生活に活かし、より良い教員を目指して今後も学び続けていきたいと思えます。

教育ボランティアを通して

芸術身体教育コース 4年 弘内 那乃映

本年度でN中学校での活動は3年目となる。母校ということもあり、お世話になった先生方に見守られ、有意義な活動をさせていただいた。自身が生徒として過ごしていた場で、今度は教員目線で関われることは新鮮で刺激になった。その中でも生徒に対する教員の対応がとても印象に残っている。

支援学級と専門である美術の授業で活動させていただいた。支援学級では自分の好きなことをよく話してくれる生徒がいた。その生徒は車が好きで、授業中に脱線して話すほどに好きで知識も持っていた。私自身がマニュアル免許を持っていることもあり、生徒も興味を持ってくれて良い関係を築けていた。それ故に注意や声掛けがしづらかったことがある。生徒の言葉遣いや態度に対し担当の教員はフラットな目線で対応していたように思える。教育ボランティアという友達でも先生でもない立場でどう対応していくべきかと悩むこともあった。だが、ボランティアを続けていくなかではじめのころよりは少し距離を取って対応できるようになってきたと感じている。

美術の授業では30人ほどの生徒の作品や構想、授業内での取り組み方について覚え、それぞれに対応している姿を見ることが出来た。授業を作るうえで生徒理解はとても大切なことだと教育実習を通して感じていた。生徒の感性や気持ちがよく見えてくる教科だと考えているため、生徒の様子をよく観察しながらより良い授業が作れるようになりたいと感じた。

生徒の様子をいつもよく見ている先生方の様子を長期間見ることができ、自身の教員を目指す気持ちが高まったり、より明確にがんばっていきたいことをイメージできた活動になった。

実態に応じた子どもとの関わり

障害児教育コース 3年 岩澤 胡春

昨年に引き続き、笛吹市立一宮北小学校で活動を行った。今年度の活動では、子どもたちとの関わりを通して、自身の関わり方に対する価値観を形成することを目標として活動に取り組んできた。昨年までの活動を通して、関わり方は先生の考え方や児童の実態によって変化させる必要があることを学んだ一方で、自分なりの価値観をもつことで一貫した関わりが可能になると考えるようになった。この一年の活動で価値観を完全に確立できたとは言えないが、児童と遊ぶこと、そして児童の発言を受け止め解釈しようとする姿勢が関わりにおいて重要であると感じた。

特に今年度は、教室に入ることが難しい児童や特別支援学級の児童と関わらせていただき、発言を丁寧に受け止める大切さを実感した。一見すると理解し難い行動であっても、その時の状況や児童の思いを踏まえると一貫した行動であり、児童の話聞いた上での支援が重要であると考えた。また、休み時間に遊ぶことを通して多くのコミュニケーションをとることができ、遊びを通じた関わりが児童理解や実態把握につながることを学んだ。さらに運動会にも参加させていただき、行事への参加の仕方は児童によってさまざまであることを学んだ。児童の実態に合わせて参加方法が工夫されていた点が印象的であった。特に、運動会に抵抗感のある児童の「離れた距離から参加をする。ここならできるから。」という発言が印象に残っている。このことから、児童の選択と挑戦の機会の両方が大切にできる支援が必要であると考えた。またこのような支援には、日頃からのコミュニケーションと信頼関係、実態把握が不可欠であるだろう。今後の活動では信頼関係の構築のために、積極的にコミュニケーションをとり、表情や声色など様々な情報から児童の思いを理解しようとする姿勢を大切にしていきたい。

生徒一人一人に合わせた対応の大切さ

言語教育コース 3年 渡邊 奈々帆

今年度は、富士川町の「そよ風教室」でボランティア活動をさせていただいた。休日に開催される「そよ風教室」では、中学生の課題や学習のサポートをした。多くの生徒が勉強の分からない箇所を質問してくるので、その箇所を「分かる」に変えてあげられるよう一年間努めてきた。

「そよ風教室」の魅力は学校とは違い、個別に丁寧に対応できるという点であると考えている。そのため、子どもが難しいと感じている問題を把握してその箇所を解説するだけではなく、その子がどの段階まで理解していて、どういうところでつまづいてしまっているのかということを理解できるようにするという意識で活動していた。また、毎週同じ生徒が来るので、生徒それぞれに合わせた教え方を考えるようにしていた。

これらのことを意識して活動する中で、子どもから「先生の教え方分かりやすい」と言ってもらえたり、子ども自ら私のところに問題を持ってきて「この問題のここが分からないから教えてほしい」と質問してもらえたりした。子どもの「分からない」をどのように解決すればいいかを考えながら活動をしたことによって、活動を始めたばかりの頃よりは、生徒とコミュニケーションを取る回数も増えた。このことから一人一人に寄りそった対応をすることは生徒と良い関係を築くことにつながるということを実感することができた。また、あまり自分から質問してこなかった生徒が、私が近くを通りかかったときに質問してくれてくれたことが大変嬉しく印象に残っている。生徒の質問に真摯に対応することによって生徒が質問しやすい環境を作ることにもつながっているということを実感することができた。

この活動を通して、生徒が信頼できるような先生になるためには、一人一人に合わせて対応することが大切ということを実感したので、将来教師になった際に活かせるようにしていきたい。

異なる校種での教育ボランティアで学んだこと

山梨県小学校教員養成特別教育プログラム 3年 幡野 心優

私は今回、昨年度からお世話になっている韮崎北西小学校に加え、中学生との関わり方や中学校で実際に行われている英語授業を学びたいという思いから韮崎東中学校でも活動を行わせていただいた。その中で発達段階が違うからこそその関わり方の難しさと教師の支援方法の違いを実感できた。

小学生低学年だと子どもから「中休みに一緒に遊ぼう！」「次の授業もいてくれる？」と歩み寄ってくれたり、分からないことがあった時も「先生、ここが分からないから教えて」と言われたりすることが多い。一方、中学校だと休み時間に生徒から話しかけられたり、授業中も助けを求められたりすることはほとんどなかった。だからこそ、自分から積極的に話しかけにいたり、机間巡視で生徒の様子を見て、細かい言動に気づいたりすることの大切さを学んだ。また、何か授業中に活動が止まってしまっている時、小学校低学年では教師の発問の意味自体を理解できておらず、何をしたらいいのか分からないという児童が多かったため、授業内容を一緒に振り返り、発問を言い換えるような支援を主に行っていた。一方、中学校では発問の内容は理解できているが自分の回答に自信が持てていない生徒が多かったため、生徒の考えを肯定しながら、ヒントを与えられるような関わり方を意識していた。中学校で学んだ子どもとの関わり方は小学校にも活かしていけると感じている。実習前の学びとして、中学校に行くことを決断したが、実習だけでなく、私の将来の糧となる学びとなった。

両校ともお休みをいただくことがあったのだが、その際、先生方から、「子どもたちが『今日はみゆ先生は来ないのか？』と聞いてきたよ。先生が来るのをすごく楽しみにしているんだよ。」と言われた。自分の不甲斐なさを感じる中でその言葉はとても嬉しく、子どもたちができるようになった姿、「先生、ありがとう！」と満面の笑みで言ってくれる姿は私の教員になりたいという想いを強くしてくれた。

教育ボランティアの活動を振り返って

山梨県小学校教員養成特別教育プログラム3年 藤原 芽映

私は地元の公立小学校に毎週木曜日の3校時まで、主に学習支援として教育ボランティアに参加させてもらっている。1年次のときから同じ小学校で継続しているため今年度で3年目になり、児童の成長の過程を長期にわたって見られていることに嬉しさを感じる。また、普段は教室で授業を受けられない子に対して支援をする日は、私が一緒に行くと少しでも長い時間頑張って教室で授業を受けられるようになったということが何回かあった。前年度、私は教育ボランティアという立場で自分に何ができるのか、役に立つことができているのかということに対して不安を抱えていたが、私が関わっていた児童にとっては、ときどき来る人といつもとは少し違う気持ちで授業を受けられることが少し新鮮に感じられ、それがあつ種の気分転換になるのならそれが私の役割の1つになってもよいのかもしれないと思えるようになった。一方で、私のボランティア先では毎週配属されるクラスや支援する児童が不特定であるので、私の中で児童との関係値が蓄積されないという難しさもあった。それでも、その日関わる数時間で心を開いてもらえるよう努力した。昨年度に引き続き、教室で授業を受けることが困難な子や立ち歩いてしまう子に対して支援をする日がほとんどだったが、今年度の活動で参考にしたのは児童と教師が共有する個別的な時間割である。1日の中ですべては教室に行けなくても、その児童と相談して「この時間は教室に行きこの時間は図書館に行く」など、1日の流れを決めていた。私もその時間割をヒントに児童と関わることで「この時間は頑張るって決めたんだね、えらいね、一緒に頑張ろう」などというように児童自身が決めたことをもとに声かけをすることができた。活動中はあまり話してくれない児童も、私が帰るころになると「もう帰るの?」「次はいつ来る?」などと聞いてきてくれ、私も来週もこの子たちのためになれるように頑張ろうと思うことができた。

子ども図書室での活動を通して学んだ幼児期の子どもとの関わり

芸術身体教育コース 3年 藤森 咲智

私は子ども図書室での教育ボランティア活動を通して、幼児期の発達特性を踏まえた関わりの重要性を学んだ。活動では、子どもが図書室に親しみを持ち、安心して過ごせるよう、企画の立案や準備、読み聞かせ会、クリスマス会などの行事を行った。

読み聞かせ会では、幼稚園児が集中して参加できるよう、物語の展開が分かりやすく、繰り返しの表現が多い絵本を選んだ。読みの途中で「次はどうなると思う?」と問いかけると、「ゴリラになる!」「逃げなきゃだめ!」といった声が上がリ、想像力を働かせながら物語に関わっている様子が見られた。これは、言葉によるやり取りを通して思考や表現力が育まれている場面だと感じた。

特に印象に残っているのは、クリスマス会で歌を取り入れた活動である。歌い始める前に「この歌、知ってるひと?」と問いかけると、「知ってる」「幼稚園で歌ったよ」と多くの子どもが反応した。幼児期の子どもにとって、既知の内容は安心感につながり、活動への参加意欲を高めることを実感した。また、歌詞カードを掲げながら歌うことで、文字をまだ十分に読めない子どもも、イラストや流れを手がかりに歌に参加することができた。「これサンタさんの曲」「ベル鳴らす曲だよ」といった発言から、視覚的情報と音楽を結びつけながら理解を深めている様子がうかがえた。これは、複数の感覚を使った活動が学びを支えることを示していると考えられる。歌が終わると、「もう一回やりたい」「次はあの歌がいい」と自分の思いを言葉にする子が多く、活動を通して自己表現の機会を提供できたと感じた。

本活動を通して、幼稚園児には一方的に教えるのではなく、発達段階に応じた声かけや環境づくりが重要であると学んだ。子どもの反応を受け止めながら活動を調整することで、主体性や意欲を引き出すことができる。今後も教育的視点を意識し、子どもが楽しみながら学べる支援を行っていきたい。

2年目の経験から得た学び

幼小発達教育コース 2年 羽田 千紘

昨年度は、児童の活動を評価する声掛けを無意識に行っていた。このような声掛けは、教師から評価されない場合に児童が自信を失ったり、教師から認められること自体が活動の目的となってしまう可能性がある点に課題がある。今年度は、児童の活動を評価するのではなく、活動内容や思考過程を言語化する声掛けを意識して実践することを目標とした。

今年度の教育ボランティアでは、主に三学年の算数および理科の学習支援を行った。具体的には、児童がつまづいている問題について共に考えたり、解決に向けた手がかりを提示したりする支援を行った。活動当初は、児童が問題を解決できた際に「すごい」「さすが」といった評価的な声掛けをしてしまうことがあった。しかし、継続的に児童と関わり、声掛けの在り方について振り返りを重ねる中で、評価ではなく、問題解決に至るまでの過程や児童の思考を言語化した声掛けへと変化していった。

声掛けの変化が児童に与えた影響を活動の中で直接的に実感することはできなかった。当初は、児童がどの段階でつまづいているのかを捉えることが難しく、支援方法に迷うことも多かった。しかし、児童の活動や思考を言語化することで、短時間の関わりであっても、児童の考え方や困難としている点を把握しやすくなった。「ここをこうしたい」「これはさっきやったんだけどできなかった」などの児童の発言から、児童が問題にどのように向き合い、どの部分で困難を感じているのかを整理することで、必要な声掛けや支援内容を明確にすることができた。その結果、指導の方針を立てやすくなり、児童と共に問題解決に取り組むことが可能となった。将来教員となった際には、児童がつまづきやすい点を踏まえた丁寧な指導を行うことで、理解を促す授業づくりに努めていきたい。

教育ボランティアの活動を通して

幼小発達教育コース 2年 渡邊 美智佳

私は週に1回、甲府市立相川小学校で授業や休み時間に活動を行った。児童の学びを支える教師の姿を間近で見ることができ、来年の教育実習に生かしたいと思う学びが多くあった。特に印象に残っているのは、教師の工夫された授業づくりである。2年生の算数の授業では、九九カードを使ったビンゴゲームが行われていた。電子黒板に数字が表示され、その答えとなる九九の式が手元のカードにあれば取るという活動である。児童は「もう少しでそろう」「ビンゴになった」と声を上げながら楽しそうに参加しており、勉強をしているという意識はほとんど見られなかった。しかし、遊びの中で何度も九九に触れることで、計算が自然と身につけている様子が見られた。この活動を通して、教師が学習内容を工夫し、楽しさの中に学びを取り入れることで、児童の意欲や理解を高めていることを学んだ。

また、ICT機器を活用した授業も印象的であった。ポスター作りの学習では、Canvaなどのツールを使い、パソコン上で作品を作成していた。友達と相談しながら画面を操作する姿から、児童がICTを活用して主体的に学習に取り組んでいることが伝わってきた。大学の講義ではICTを活用した授業実践について学んでいたが、実際に学校現場で使用されている様子を見ることができ、貴重な経験となった。

特別支援学級では、担任の先生が児童一人ひとりの特性を理解し、その日の様子や気持ちに応じた支援を行っていた。私は当初、活動を順番通りに進めることを重視し、「これやろうよ」と声をかけていたが、「できそうなことからやってみよう。どれからやりたい?」と聞き方を変えることで、児童が自ら学習に向かう姿が見られた。児童の気持ちに寄り添い、待つ姿勢の大切さを学んだ。

これらの経験を通して、教師が児童理解に基づき、学びの環境や方法を工夫していることを学んだ。今回の学びを、今後の大学での学習や将来の教育実践に生かしていきたい。

教育ボランティアを通して学んだこと

山梨県小学校教員養成特別教育プログラム 2年 堀井 香甫

今年度は前期に甲州市の小学校で教育ボランティア活動をさせていただいた。知的障害児学級の自立活動のサポートや2年生と5年生の授業サポートを行った。今回は知的障害がある児童や場面緘黙の児童との関わり方を知ることが目標の1つにしていた。最初はこうしたらよいか分からないことが多かったが、活動を継続していく中で、指示をしっかりと伝えるためには視覚的に分かりやすくすることが大切だと学ぶことができた。指を差しながら「ここを見るよ」、「ここに～を書くよ」、「ここを真似するよ」と声を掛けたり、やることをジェスチャーや実際にやってみて表したりすると伝わるが多かった。また、指差しやうなずきで反応できるような問いかけをすることが大切であることも学んだ。「どうしたい？」と問うのではなく、選択肢を示して「どっちがいい？」と問いかけることによって反応が得られた。最初の頃、場面緘黙の児童に話しかけたときに、その子の体がビクッとなって固まってしまったことをとてもよく覚えている。場面緘黙の方と関わったことはあったが、実際に体が固まってしまうのを見たのは初めてだったため、強い不安を与えてしまったと感じた。会う回数を重ねて慣れていく中で、私の言ったことにうなずいて反応してくれることもあった。時間をかけて、ゆっくりと関係を構築していくことが重要だと学んだ。2年生のサポートを通して、各場面やその子に合わせた柔軟な対応をすることや注意をする時に言葉遣いは優しく、けれど声のトーンや表情はかたくすることの重要性を学んだ。一つの考え方に捕らわれず、他の選択肢はないかを常に考えていくことが教員として必要なスキルであった。5年生のサポートでは、自分の話題提供力のなさに気付くことができた。話しかけることはできるのだが、そこから会話が続かないことが多かった。子どもたちの興味があることの情報を集めたり、様々な視点から話題を広げ、会話を続けさせる練習を日常生活の中で行ったりしていきたい。

「教える」以前に考えるべきこと

言語教育コース 2年 岡部 佑星

今回、私は甲府市の小学校で教育ボランティアをさせていただいた。私の目指す校種は中学校、担当科目は英語ではあるが、教育ボランティアでは他校種・他教科も観察や支援することができることに加え、約1年を通して行ける重要な期間であり、本ボランティアでも様々な学年で支援を行うことができた。特に3年次と5年次で関わる機会が多く、『教員を目指すうえで考えていくべきは何か』を発見する良い経験となった。私は本ボランティアから『学級運営の大切さ』と『外国語指導の意義』を考えた。これまで『教育』というと、教科の指導ばかり考えており、どのように指導したら分かりやすいか、楽しく学べるかという方向に意識が向いていた。しかし、実際、学級には多様な子どもたちがおり、それぞれにあった個別最適な関わりをすることが大切なことに改めて気付くことができた。児童との関わりの中で叱る教育・褒める教育という点も考えた。叱ることは全て悪なのか、褒めることやPBS（ポジティブ行動支援）のみで子どもたちの社会的自立やウェルビーイングに繋がるのか、答えを出すことはとても難しく、授業と関連のないことをしている子などにどう声掛けをすればいいのか悩むこともあった。ボランティアの立場では難しいかもしれないが、教員になったときには児童、生徒が授業に自主的に取り組めるような振る舞いをしていけるよう努めたいと考えた。そして、教科に関して、1人の外国語に苦手意識を持つ児童から「外国に住む予定ないし英語は無理、なんで勉強するの？」と聞かれた。英語教育の根幹ともいえる問題で、私も何度も考えてきたつもりではあったが、いざ実際に聞かれ小学生が納得できるような答えを与えることはできなかった。説得力のある答えを自分の中で模索し続けることに加え、学ぶことや、学校に来る必要性に疑問を持つ子どもへの対応力も身につけていきたい。

これからも教育ボランティアを続け、指導観や児童生徒との関わり方など教師像を確立させたい。

私立と公立、小学校と中学校の活動の比較

山梨県小学校教員養成特別教育プログラム 2年 篠崎 実咲

私は今年度、山梨小学校と駿台甲府中学校に教育ボランティアとして伺った。山梨小学校は去年から引き続いて活動に参加していて、去年は4年生専属のような形であったが、今年は日ごと違う学年の授業補助等を行った。学年ごとでの子どもたちの様子、先生方の働きかけ等も違い、担任の先生の個性を映し出しているように感じられた。学生ボランティアとして手が止まっている児童に声掛けを行う際には、段階的な指導を行うことに注目し、まずは式のヒント、次に正しい式、最後に一緒に答えを求めてみるなどして工夫した。

また後期から駿台甲府中学校の英語科の授業の補助に入った。私立学校に伺うこと、また中学校の様子を観察実習以外で見たことがなかったため、初めて間近で教育の様子に触れることができた。中学校の様子としても、同じ学年によってもクラスごと様子が全く違っており、学級という集団は生活の中心となり大きく影響を受けるのだということが感じられた。また私立学校として、先生方の授業スタイルもそれぞれで異なっており、先生の個性が反映される場であるなどと思った。教える内容についても、テスト期間は教科書本文や文法の練習、それ以外は英語科と美術科、国語科が合わさったような内容の授業に参加し、自由度が高い中田生徒が楽しそうに学んでいる様子を見ることができた。

2つの学校で学生ボランティアとして子どもたちと関わり、比較しやすく、多くの違いに気づけた一念だった。今後も教育ボランティアとして様々な校種や学年での活動を通し、視野が広げられるようにしたい。また、教える側の立場として、よりよい教え方や関わり方、ポジティブな言動を意識して取り組んでいきたい。

関わるということ

言語教育コース 1年 西方 麻菜

私は、11月から児童養護施設明生学園で教育ボランティアに参加している。私は今まで教員になりたいという夢を抱いてはいたが、子どもと関わった経験がなく、教員という職業をどこか抽象的に捉えていた。しかし、今回初めて教育ボランティアに参加し、1人の女の子の学習サポートについてことで、「教える側」として大切な姿勢や、自分の課題に気づくことができた。私は今まで、子ども達と接すれば自然に会話が膨らみ、スムーズに学習に入ると勝手に想像していた。しかし、実際に女の子と顔合わせをしてみると、何を話したらよいのか、どのように勉強に入っていけばいいのか分からず、沈黙が生まれてしまった。私はこのような経験から、緊張している子どもを安心させてあげられるような導入の仕方や、コミュニケーションの取り方が今の自分ではわかっておらず、相手を頼ってしまっていることに気づいた。そして、笑顔や声のトーンなど自分の感情を表出することの重要性に気づいた。したがって、これからの教育ボランティアでは、今回発見した自分の課題を意識的に改善し、子どもに本当の笑顔を見せてもらえるような存在を目指したい。

また、私は「漢字」の教え方に難しさを覚えた。私自身、漢字の学習が好きで、教えることもきつとくまくいくと思っている節があった。しかし、実際に教える立場になり、「これの漢字何？書いて！」と言われた際に、聞かれた漢字をすぐに書くべきなのか、ヒントを伝えるべきなのか悩んだ。このように、学習を手助けする際に、子供の成長や気づきを促す工夫や引き出しが自分には全く備わっていないことを痛感したため、これからの大学生活や、教育ボランティアで指導の工夫や知識を増やしていきたいと感じた。また、教える際に、「どのように考えて解いていたっけ？」と立ち止まってしまうことがないように、普段から問題の答えではなく、問題の過程を大切にしていきたいと感じた。

教育ボランティアを振り返る

生活社会教育コース 1年 一瀬 瑛人

私は、後期から甲府南高校で教育ボランティアを始めた。高校教員志望であるため、今のうちから現場での実践経験を積みたい、現役教員のお話を聞きたいと思ったからである。

私は、政治経済の授業やF探（甲府南高校独自の授業）に参加し、それ以外の時間は、図書館の手伝いをした。F探の授業では理数科と普通科のコースの生徒と関わった。生徒たちは、実に自主的・主体的に取り組んでいた。特に理数科の生徒は、私が助言をする必要を微塵も感じない。ハイレベルな彼らにどのように関わればよいのか悩み、担当の先生に相談をした。先生からは「無理にレベルを合わせようとする必要はない。むしろ、第三者の目線から彼らに質問をし、彼らが上手く答えられなければ、そこについてもっと考える必要があることを訴えればよい。」と教えていただき、すごく参考になった。

政治経済の授業では、先生に授業作りについて質問をした。先生は、「アクティブラーニング的な授業が求められているのは承知しているが、入試までに授業を終わらせるためには現実的に厳しい側面がある。」とおっしゃっていた。私も強く同感したと同時に、理想と現実の難しさを改めて感じた。そして、一度5分間だけ授業をする機会を頂いた。内容は、気になるニュースを生徒から聞き、それについて解説し、授業内容と結びつけるというものだった。生徒からは、普天間基地や伊東市市長についてのニュースが挙がった。私は、授業前にある程度生徒が取り上げるであろうニュースを予想し、回答も考えていた。しかし、いざ教壇に立つと、冷静さを保とうとするのに必死で事前に考えていたことをすべて忘れてしまった。緊張していた感じは特になかったので、「慣れ」が圧倒的に自分に備わっていなかったのだろうと深く感じた。

教育ボランティアは、貴重な経験の連続であった。経験して良かったと思う。

現場でしか得られない学び

科学教育コース 1年 柏木 もも

私は、中央児童相談所で、主に小学生・中学生に対して学習支援を行いました。児童相談所が実際にはどのような場所なのか理解できていませんでした。しかし、今回のボランティア活動を通して、学校以外の教育の場での立ち振る舞いや気をつけるべき点を学ぶことができ、視野が広がったように感じました。相談所内では、遊ぶおもちゃのルールだけでなく、名前を呼ぶ際のルールなども細かく決められていることに始めは驚きを感じました。しかし、そのルールも子どもたちや相談所の職員の皆さん、両方を守るためのものであることを活動を重ねるうちに実感しました。そのため、私も子どもたちを傷つけることのないよう、踏み込んだ話をしないよう心掛けたり、できるだけ対等に声をかけるよう意識したり、話し方にも注意したりするようになりました。それでも一度、一緒にボランティアに参加した同級生と、小学生の部屋と中学生の部屋どちらに行くかという話を、子どもたちがいる前でしてしまったことがありました。その際、職員の方に「そういった話を子どもたちの前ですると、敏感に反応してしまうから気をつけて」と注意を受けました。教える場面だけでなく、その前の段階から気をつけるべきことはたくさんあるのだと勉強になりました。学習支援の活動では、顔や名前を覚えてくれた子が「柏木さんだ!」と言ってくれたり、数学を教えていた子に「分かりやすい!」と言ってもらえたりして、本当に嬉しかったです。後期には小学生以下の子と遊具で遊びました。すべり台で滑ってみてよ!と言われたときに、ちょうど他の子が来てしまい、私が滑ることができず、落ち込ませてしまったことがありました。その後しっかりと「ごめんね」と伝え、一緒に楽しみたいという姿勢を見せたら、また同じように笑顔を見せてくれるようになりました。こういった際の対応も実際の場でなければ経験できませんでした。教育ボランティアを通して、生の現場でしか得られない学びや経験ができました。

教育ボランティア活動報告書

芸術身体教育コース 1年 伊東 ひかり

私は、甲府市教育委員会のあすなろ本級での教育ボランティアをさせていただきました。あすなろ本級には、不登校の小学生や中学生が通っています。登校したら、まず各自で学校や自分の参考書を使って勉強をして、勉強が終わったらそれぞれが好きなように遊んで楽しく過ごしていました。

勉強の時間には、丸つけをしたり、勉強を教えたりしました。自由時間には、児童生徒と一緒にドッジボールや、トランプ、ボードゲームなどをして遊んだりしました。子どもと関わる中で、不登校であることや、学校のことについて、深い話はあまりしなかったけれど、一緒に過ごすうちに、心を開いてくれたり、遊ぶのを楽しんでくれたりしているのが分かって、とてもうれしかったです。

今まで不登校の子どもと関わったことがなかったけれど、自分が想像するより、学習に対する意欲のある子が多いんだなと感じました。ある中学生が、一週間かけて漢字ドリルを1冊全部やってきて、あすなろ本級の先生と丸つけに苦しんだことがありました。また、数学の問題を解く時にもわたしが一方的に教えるのではなく、一緒に考えて答えを導くことができました。学校に通っていた私よりも意欲的に学習している、と感じた場面がたくさんありました。また、不登校になってしまった子どもたちは、友達とコミュニケーションをとるのが苦手なのではと漠然と考えていましたが、あすなろ本級の子どもたちは元気な子が多く、いつも楽しく遊んでいました。おとなしい子どもでも話しかけたら意外と話をしてくれたのが印象的でした。

初めての教育ボランティアで、はじめは不安なこともあったけれど、あすなろ本級の先生方にたくさん助けていただいて、今後に生かせる活動にできて、本当によかったです。

教育ボランティアの経験

やまなし小学校教育コース 1年 深澤 初音

笛吹市の小学校で教育ボランティアを行いました。最も印象に残った子どもとのエピソードは、三年生と一緒にぶどう狩り、パフェ作りをしたことです。ぶどうの大きな房を、「先生、見て！」と真っ先に嬉しそうに見せに来てくれたのがとても嬉しかったです。自分のことを先生として認識してくれていることと、自分を選んで報告しに来てくれたことが初めての体験でした。また、ぶどうを持っていない私に一番大きなぶどうや、いくつものぶどうをくれる子が何人もいて子どもたちの優しさや素直な気持ちに触れることができました。その後、一緒に給食を食べた時も「私の隣で食べて」と言ってくれたり、たくさん質問をしてくれたりして子どもたちから自分が必要とされているということを実感しました。いい意味で距離が近く、子どもたちが心を開いてくれていたのを会話から感じるが多かったです。パフェ作りでは、その時初めて会った他のクラスの子が、こちらから話しかける前に「これでいいの？」「見て、見て」と積極的に話しかけてくれて、自分が緊張していたのがすぐなくなりました。写真撮影を頼まれ、子どもたちの写真を撮り歩いていると、子どもたちの楽しそうに笑う顔やおいしそうに食べる顔に何度も癒され、嬉しくなったことを覚えています。よく、学校の先生は子どもたちの笑顔のために働いているという言葉を目にしますが、本当にその通りだと感じました。子どもたちの笑顔が見られるなら頑張ろう、と思いました。お世話になった先生方も、皆優しく「先生が居て助かった」「先生が居てくれるだけで助かる」という言葉をかけていただいてとても嬉しくなりました。何も分からず、迷惑しかかけていないのにこのような言葉を掛けられる先生方の懐の深さを強く実感しました。今回の教育ボランティアで、子どもの気持ちや行動を学べたことはもちろん、教員としての動きや考え方もたくさん教えていただいたことで学ぶことができました。とても良い経験になりました。

甲府市教育支援ボランティア事業における山梨大学生の活動について

甲府市教育委員会
指導主事 山田 睦子

1. 事業の概要

- (1) 事業名：甲府市教育支援ボランティア事業（H22年度より事業開始）
- (2) 目的：甲府市立小中学校において児童生徒へのきめ細かな支援の充実を図るために、甲府市内にある大学に在籍する学生を教育支援ボランティアとして派遣する。

2. 山梨大学生の活動の実際（R7年度）

- (1) 活動人数：のべ41名 【R6年度…45名】
- (2) 派遣先学校数：21校（小学校17 中学校3 適応指導教室2）※全36校、3適応指導教室中
- (3) 主たる活動内容：タイプ別に見ると、多い順に、「授業におけるきめ細かなTT支援」、「特別支援教育対象児童生徒への支援」、「不適応児童生徒への支援」となっています。
- (4) 活動回数・時間（45/50分単位）：のべ100回・のべ250時間【R7年12月現在】

3. 派遣先小中学校からの感想（抜粋）

優しく接するので1年生の児童が、来てくれるのを楽しみにしていました。【小学校】

笑顔で優しい態度で子どもたちに接してくれました。子どもたちとの信頼関係を作ろうと自分から話しかけ、分からない問題があると丁寧に教えてくれる様子が見られました。【小学校】

授業前の休み時間から学級に入り、児童とコミュニケーションを取っていました。理解が難しい児童をいち早く見つけ、支援に入っていました。授業前や授業後において、担任と情報共有をしたり、支援してほしい児童を聞いたりする姿が見られました。【小学校】

支援を要する児童が多い中、児童に寄り添い、温かい言葉かけを行うことができ、学生さんの支援が児童の学習意欲の向上につながったことは大変ありがたかったです。とても素直で、勤務態度も大変好感がもてました。【小学校】

単級や小規模校での教育活動に魅力を感じ、多くのことを学ぼうと前向きに取り組んでいました。小規模校での実習を通して、教師と児童との関わりや、子供達同士の交流、個人差への対応について学ぶことができた様子でした。【小学校】

主に特別支援学級の生徒の学習支援を行っていただきましたが、生徒に寄り添い、きめ細かに支援をしてくださいました。生徒からの信頼も厚く、学習以外にも心の支えとなりました。学校現場は、人手不足が常態化していますが、教員を志望し、やる気があり、細やかな言動をとれる学生さんのボランティアへの参加は大変ありがたいです。【中学校】

あらゆることに前向きに取り組み、多くの子どもたちのサポートをしていただき、大変助かっています。【中学校】

4. 学生の皆さんへ

「先生～！」学校現場に入れば、皆さんは一人の大学生ではなく、子供達から頼られる「先生」になります。

教室には、感動や喜びの瞬間があふれています。できない問題が解けた時の笑顔、休み時間の笑い声、部活動で汗を流す青春の輝き……。その一つひとつが子供達の自信となり、皆さんはその成長を間近で感じることができるのです。

「教えるのは難しそう・・・」と構える必要はありません。学習を見守り、話し相手になり、趣味の話をする。そんな等身大の関わりこそが、子供達の心の支えになります。

一生忘れられない感動体験を、ぜひ甲府の子供達と味わってみませんか。皆さんのご協力をお待ちしています！

「2025年度 学生教育ボランティア活動を振り返って」

南アルプス市教育委員会 指導監 上野 中

1 本年度の活動状況

- (1) 学生ボランティア数 4名
- (2) 活動場所 市内小中学校 4校

学生が希望する学校で活動ができるように調整しながら、小学校3校、中学校1校で活動していただきました。

2 活動の実績 <山梨大学の学生4名による活動>

- (1) 学 校・・・若草小学校, 若草南小学校, 落合小学校, 白根巨摩中学校
- (2) 内 容・・・学習支援(授業準備・補助, 放課後学習), 特別支援, 部活動支援等
- (3) 時 間・・・大学の授業の空いている時間を使い, 午前中や午後, 放課後など各自の時間に合わせた時間設定で協力していただきました。

3 活動の様子(各学校の感想から)

○積極的に授業や部活動のサポートに入り、一人ひとりの生徒に対してもきめ細かく対応してくれた。長く本校の教育ボランティアに携わってくれているため、生徒も信頼しており、教師にとっても実に心強い存在となってくれている。

○本校でのボランティア活動が3年目になり、子どもたちが顔を見てすぐに声をかける存在となっています。本校の先輩として、学習面でも生活面でも子どもの意欲向上につながる声かけや支援をしてくれてとてもありがたいです。即戦力として活躍してくれるものと期待しています。

○小学校3～6年生の各教室に1回ずつ入ってもらった。子どもに積極的な声掛けをしながら机間巡視するなど、意欲的だった。先生が来るのを子ども達は毎回とても楽しみにしている。

○なかなか教室に入れない児童や初対面ではなかなか打ち解けられない児童に対して丁寧に接していた。学習が困難な児童に対して、前向きに取り組めるよう丁寧な声掛けをしてきている。様々な活動を児童と一緒にを行い、児童の興味関心を上手に引き出しながら積極的に活動してくれた。

4 活動を振り返って

本年度は、4名の教育ボランティアの皆さんに本市の学校教育を支えていただきました。児童生徒に年齢が近い皆さんの寄り添った支援や関わりが、子どもたちの安心した学校生活につながっていたと思います。また、温かい声かけのおかげで、自分の力を発揮できた子どもたちも多かったと聞いています。皆さんが児童生徒として通っていた当時と比べ、現在の学校教育の姿は大きく変わってきているのを感じたと思います。1人1台端末の使用を前提とした単元設計や授業展開など、子どもたちの個別最適な学びと協働的な学びをどう充実させていくか。同時に求められるソーシャルスキルなどのコミュニケーション能力をどう向上させていくか。保護者や社会が求めている学校教育が年々変化しているこの時期に、実際の学校現場を経験したことが皆さんの力になっていくことを期待しています。南アルプス市における教育ボランティア活動の受け入れも今年で12年目になりました。この教育ボランティアに参加してくださる学生のみなさんは本当に意識が高く、勉強はもちろん学校の楽しさや面白さを子どもたちに伝えてくれました。時には精神面で支えにもなっていたいただき、各校からは感謝の言葉がたくさん届いています。今後も多くの学生の皆さんに参加していただき、子どもたちのために若い力をお借りできれば幸いです。皆さんと近い将来、学校現場で一緒に働く事ができる日を心から楽しみにしています。

「2025年度 教育ボランティアについて」

甲斐市教育委員会
指導主事 清水 仁

1 本年度の活動状況

(1) 学生ボランティア数 11名(延べ数)

(2) 活動内容・場所

① 市内小中学校への教育ボランティア活動

内容：学習支援, 特別支援, 個別支援 等

場所：敷島小学校, 敷島北学校, 敷島南小学校

② 甲斐市中中学生対象の自学講座

内容：講座運営, 学習支援 等

場所：竜王北部公民館, 竜王中部公園セミナーハウス, 敷島公民館, 双葉公民館



2 活動の様子

(1) 市内小中学校への教育ボランティア活動(小学校の感想から)

【小学校】

今年度、初めて本校の活動に参加してくれた学生ボランティアの方でしたが、その非常に誠実な勤務態度が大変印象的でした。初めての環境であるにも関わらず、本校の児童数や学級の状況、さらには個々の児童の特性を短期間で的確に把握しようと努め、非常に円滑に活動をスタートさせてくれました。その誠実な姿勢から、職員との連携も非常にスムーズで、授業中のきめ細やかなサポートは担任にとっても大きな助けとなりました。

児童たちは、新しいお姉さんのような存在である学生さんの来校を毎回心待ちにしており、中休みや昼休みには校庭へ一緒に飛び出して元気に遊ぶ姿が全校で見られました。学習支援の場面においても、つまづいている児童の隣にそっと寄り添い、意欲を引き出すような積極的な声掛けが見られ、教室全体の学ぶ雰囲気が一段と明るくなったように感じます。

現在、教職員の人手不足が教育環境の深刻な課題となっている中で、若さ溢れる学生さんが教育活動に関わってくれる本事業は、学校にとって単なる「人手」以上の大きな支えであり、非常にありがたいものです。履修科目も多く多忙だとは思いますが、ぜひまたボランティアとして本校へ来てくれることを児童・職員一同願っています。来年度もこの素晴らしい事業を継続して活用し、学生さんと共に児童たちを育てていきたいと考えています。

(2) 甲斐市中中学生対象の自学講座

自学講座は、山梨大学と山梨県立大学の学生の皆さんにご協力いただき、運営から学習支援までの全てをお願いしています。本講座には、市内在住の中学生1～3年生が参加しており、中学生からは、「参加してよかった」「勉強が進んだ」といった感想が数多く寄せられています。

中学生は、年齢の近い大学生の皆さんに親近感やあこがれの思いを抱いており、個々の学習状況にあったアドバイスを受けられることを心待ちにしております。大学生の皆さんには、今後ご協力いただけることを心より期待しています。

本講座は、山梨大学と山梨県立大学の学生との連携によって成り立っていますので、活動を通して皆さん自身も仲間との輪を広げ、共に教職を志す仲間と積極的かつ主体的にご参加いただければと思います。山梨の教育を支える伝統ある山梨大学の学生の皆さんの力に期待しています。



中央市教育支援ボランティア事業を振り返って

【三村小学校より】

昨年度に引き続き、今年度も本校の卒業生である杉野さんに教育ボランティアとして来ていただきました。1年生から6年生まで、様々な教室で児童支援に携わって頂きながら、専門の特別支援教育の知識を活かし児童の個別支援にも入って頂きました。児童一人一人に寄り添いながら、丁寧な姿勢で学習支援にあたって頂きました。休み時間や清掃活動、給食時間など、積極的に児童と触れ合うことを通して、大学では学ぶことができない、教育現場での生の雰囲気や児童の様子、学習支援の方法などを日々の活動の中で体験してもらいました。教育ボランティアの活動を通して、教員の魅力ややりがいを見つけていただき、教職を目指す皆さんの将来につながれるとありがたいです。

【田富小学校より】

外国籍の児童が全校の6分の1を占める本校には、日本語指導や多文化共生に興味をもつ方が毎年訪れています。今年度も1名の学生が年間を通して教育ボランティアに参加し、様々な学年の子ども達と全力で向き合ってくれました。澁刺とした明るい笑顔と積極的なコミュニケーションで子ども達の心をつかみ、休み時間には大勢の子ども達に囲まれ、大人気でした。教育ボランティアは、将来教員を目指す方にとっては、実際に教育現場を体験でき、実践的な力を身につけ、教員という仕事への理解を深めることができる絶好の機会です。多文化共生を学ぶには、本校はうってつけの環境です。あなたの将来にとって必ずプラスになる学びがあると思います。お待ちしております。

【田富北小より】

今年度前期1名、後期1名の学生がボランティアに参加してくれました。特に今年度は2名とも1年生で子どもたちとの年齢的な距離が近いことや、2人とも子どもたちのことが大好きという気持ちが前面に出ていて、学生が教室にいるだけで教室が和やかな雰囲気になっていました。また学生にとっては、将来教職の道に進むうえで、様々な教師の授業に触れることができることは大きな経験にもなりますし、私たち教師にとっても、意欲的に子どもたちと活動する姿は、刺激にもなり、同時に元気ももらえます。教育ボランティアの活動を通して、教員の魅力ややりがいを見つけていただき、いつか一緒の職場で働けたらと思います。お待ちしております。

【田富中学校より】

本年度は将来小学校教員を目指す学生1名が教育ボランティアに参加しました。外国にルーツを持つ子どもたちへの支援に強い関心を持ち、「生徒への声のかけ方、授業方法や実態など様々なことを学びたい」という目的をもって活動を希望されました。活動期間中は主に日本語指導と特別支援学級へのサポートに入っていました。そこで、特性や言語に課題がある生徒に対して寄り添い、積極的に声をかけながら支援を行うという献身的な姿勢で取り組んでいただきました。その結果、生徒の学習意欲の向上に貢献するとともに、自身も学校現場での実践を通して、教員としての資質・能力を高めることができました。教育ボランティアとしての熱意ある活動に対し深く感謝申し上げますとともに、この活動を通し、教員の魅力ややりがいを感じていただけると嬉しく思います。

2025（令和七）年度 教育ボランティアの活動について

昭和町教育委員会
主幹・指導主事 二宮直人

【西条小学校】

本年度は、山梨大学より1名の学生さんに教育ボランティアとしてご尽力いただきました。主に低学年の児童の支援や学習の補助に入っていただきました。様々な支援が必要とする児童がいるなかで、細かいところまで目を行き届かせることができることがとてもありがたかったです。また学習だけでなく、休み時間も子どもたちとふれあい、児童と年齢が近いこともあり、お姉さんのように慕われていました。「こんどいつ来るの?」と、児童も心待ちにしていました。こうした機会があることは、学校現場の様子を学ぶことなど、学生さんにとっても大変貴重な経験だと思います。引き続き学習支援等ご協力をいただけるとありがたいです。



【土曜学習塾「ほたる學舎」】

本町では、月の第一、三、五土曜日の午前中、小学生の居場所づくりとして、また、自学自習の支援の場として、土曜学習塾「ほたる學舎」を開催しております。

本年度は、山梨大学より2名の学生さんに登録していただくことができました。学生ボランティアさんにはそれぞれ西条地区と常永地区において子どもたちに関わっていただきました。主な活動としては、会場準備に始まり、子どもの出迎えと学習準備の補助、自習中の学習支援、終了後の片付けを行っていただきました。学習支援の際には子どもたちがそれぞれ持参したプリントやドリルの分からない問題に対して、問題のとらえ方・考え方を伝え、子どもが自分で考えられるように対話を重ねている場面もみられました。そして、子どもの「わかった」、「できた」に対して、一緒に喜んであげたり、赤ペンで丸をつけてあげたりしてくれました。

また、20分間の長い休み時間には、子どもたちと一緒に外に出て、遊具を使ったり、走り回ったりしながら楽しい時間をつくっていただきました。暑い時期には汗をかきながら、寒い時には白い息をたくさん吐きながら遊んでくれました。そして、私が大変驚いたのは、教室に戻ってきてからの声かけです。手洗いやうがいさせること、衣服の調節、次の時間の学習準備と気持ちの切り替えなど、一人一人の様子を見ながら声をかけている姿は頼もしく感じました。

この土曜学習塾「ほたる學舎」には他の大学からも教育ボランティアに参加している学生さんも参加しているので、一緒になった際には、うまくコミュニケーションを図りながら子どもたちの支援にあたってくれました。

子どもたちも学生ボランティアの皆さんに会えるのを楽しみにしており、出席の意欲を高めてくれる存在になっていただいております。引き続き支援等にご協力をいただけますこと、よろしく願いいたします。ありがとうございました。

2025年度 教育ボランティアの活動について

蕪崎市教育委員会
指導主事 川端純一

蕪崎市では、小学校5校、中学校2校、教育支援センター「かがやき教室」、青少年育成プラザ「ミアキス」において、毎年、教育ボランティアを募集しています。2025年度は、小学校に1名、小学校兼中学校に1名、教育支援センター「かがやき教室」に1名、青少年育成プラザ「ミアキス」に1名、合計4名の方に教育ボランティアとして活動していただきました。

小学校では、児童への学習や生活面の支援を行っていただきました。算数を苦手とする児童への学習支援や、図工の授業において安全に活動を行うための補助など、一人一人の児童に寄り添いながら活動してくれました。児童も来校を楽しみにしており、信頼関係を築きながら関わっていました。学校の教職員からも、教育ボランティアとして活動していただけることを大変ありがたく感じているとの声が聞かれました。また、誰に対しても明るく、気持ちよく、礼儀正しく接してくれる姿に、児童・職員ともに元気をもらっていたと聞いています。来年度も、ぜひ来ていただきたいという学校からの感想もありました。

中学校では、主に英語の授業において、TT（ティーム・ティーチング）の役割を担っていただきました。困っている生徒に対して優しく関わる姿が見られ、生徒に安心感を与えていました。また、教職員に対しても礼儀正しく接していました。学校現場において、教育ボランティアの存在は非常にありがたく、生徒たちに良い影響を与えていることから、今後も継続して来ていただきたいという学校からの感想がありました。

教育支援センター「かがやき教室」は、不登校児童生徒の支援を目的とした施設です。学校に通うことに困難さを抱える児童生徒に対し、学習支援や学習方法のアドバイス、児童・生徒との対話などを通して、心に寄り添った支援を行ってくれました。特に、中学2年生で高校受験を意識して学習に取り組み始めた生徒に対しては、作図の方法などを分かりやすく丁寧に支援していました。かがやき教室には、様々な理由から学校への登校が難しい児童生徒が通室しています。学生ボランティアの皆さんには、こうした児童生徒との関わりを通して、言葉かけの工夫や寄り添い方、指導方法など、支援の在り方について理解を深め、今後の活動に活かしてほしいと考えています。

青少年育成プラザ「ミアキス」は、中高生の交流拠点として、中高生の自主的な活動を応援する県内でも数少ない施設です。教育ボランティアでは、中高生との交流やイベントの企画・運営、中高生への学習支援や進路相談などを行ってくれました。また、蕪崎市の市制祭では、高校生による店舗出店の伴走支援や、商店街の方々との交流にも関わってくれました。初対面の中高生に対しても自然で対等なコミュニケーションを取ることができており、教育ボランティアの学生を居場所の一つとして感じている中高生の姿も見受けられました。日常的に決まった中高生が来館するわけではないため、教育ボランティアの学生には、主体性や高いコミュニケーション能力、そして幅広い知見が求められます。今後は、より多くの教育ボランティアの学生に参加していただきたいと考えています。

蕪崎市では、教育ボランティアに参加してくださった皆さんに、心から感謝の気持ちを伝えたいと思います。教育現場において、子どもたち一人一人に対して充実した指導・支援体制を整えるためには、熱意ある人材の存在が欠かせません。皆さんの若いエネルギーは、蕪崎の子どもたちにとって大きな力となっています。今後も、皆さんの参加を心よりお待ちしております。

北杜市学生教育ボランティア活動を振り返って

北杜市教育委員会
指導監 堀内 洋介

北杜市では、教員を志す学生に教育現場の経験を提供するとともに、児童生徒へのきめ細やかな支援により、学校教育のさらなる充実と教育現場の活性化を図ることを目的に、2016年度から学生教育ボランティアの募集を始めました。

募集1年目においては希望者がいませんでしたが、2年目からは毎年希望者がありました。コロナ禍での実施が危ぶまれました時期もありましたが、10年目となる今年度は2名の希望があり、大変熱心に活動を行っていただきました。

本市では、活動内容や活動日などについて、学生の希望を最優先に受け入れを行っています。授業におけるT・T支援や、個別に支援を必要とする児童生徒への対応などを主な内容として、活動していただきました。また、学生としての若さや元気を大切にしながら、積極的に児童生徒と関わることで、学校の中も活性化することができました。

これまでの配属校からも次のようなコメントが寄せられています。

昨年度に続く活動となった学生ボランティアです。率先して児童と関わり、その積極的な姿勢が大変印象的でした。活動が進むにつれ、状況に応じて自ら考え、柔軟な対応ができるようになり、児童の中にすぐに馴染む明るく穏やかな人柄が光っていました。TT授業では机間巡視を行い、戸惑う児童に的確な声掛けを行うなど、安心感を与えていました。さらに、休み時間には児童からの誘いに快く応じ、校庭で交流を深める姿が見られました。空き時間にはプリントの丸付け作業など裏方の活動にも熱心に取り組み、関わった教職員からも多くの感謝の言葉が寄せられています。これらの姿から、学びを深めながら児童との信頼関係を構築する姿がとても高く評価されます。これからの活躍も期待しています。

若い学生が学校現場を実際に見て、感じて、自分の考えを持つことに貢献できるのであれば、今後もお願いしたいです。

教育ボランティアの学生さんが、プリントの丸付け等の学習支援から、給食の片付けや帰りの支度といった生活支援まで、多角的に尽力してくれました。常に自ら動き、子どもたちとも積極的に関わる姿が見られ、主体性を持って活動に取り組んでいました。今後もこのような機会があれば、ぜひお願いしたいです。

この活動を支えてくださっている山梨大学教育学部教職支援室の先生方、貴重な授業の合間を使って教育ボランティア活動にご協力いただいた学生の皆さんに心より感謝いたします。今後も、教職を志す学生の皆さんが活動しやすい環境を提供することを第一に、募集を継続していきます。さらに多くの学生の皆さんの参加を、北杜市の子どもたちや教職員とともにお待ちしております。

学生教育ボランティア事業参加を振り返って

甲 州 市 教 育 委 員 会
学校支援ボランティアコーディネーター 小川正仁

1 はじめに

甲州市では、昨年度より山梨大学教育ボランティアの受け入れを希望し、市教育委員会としてこの事業に参加させていただいています。

これまで地域支援ボランティア事業として、地域の人材の活用を中心に学校の活動の支援を進めてきていますが、この教育ボランティアは、将来を見通す中で教員を志望する意志を持った学生のみなさんに子どもたちに接してもらえるという点で大きな意義があると感じています。

本年度は、前後期合わせて5名の学生のみなさんにボランティアとして活動していただき、進んで児童・生徒に声をかけ、積極的な関わりや支援していただきました。本市の学校に興味をもち、学生ボランティアとして活動していただいた学生のみなさんの熱意とボランティア精神にあらためて感謝する次第であります。

2 本年度の活動状況

- (1) 学生ボランティア数 5名
- (2) 活動場所 市内小中学校 4校（東雲小学校、大藤小学校、大和小学校、塩山中学校）
- (3) 活動内容 学習支援（授業準備・補助、放課後学習）、特別支援、部活動支援等

3 学校より

○自分から積極的に声をかけ、明るく爽やかに生徒と接してくれました。部活動では本人の希望もあり運動部のサポートを中心に入ってもらい、生徒と一緒に体を動かし、技術面でのアドバイスも行っていました。生徒と良好な人間関係を築き、積極的にコミュニケーションを取りながら活動のサポートをしてもらい、ありがたかったです。

○児童と一緒に活動し、時には見守りながら丁寧に指導している姿は、とても立派でした。本校での経験を活かしながら、また同じ職場で働きたいと思えるような学生でした。この取組は、山梨大学教育学部の学生主体の活動だと伺いました。ぜひ、未来の子どもたちのために、若いエネルギーを注いで欲しいと願っています。

○朝の会から児童と共に活動し、支援の必要な児童には、隣で丁寧に声をかけていました。休み時間は一緒に外で遊んだり、持久走大会の練習では、運動が苦手な児童のフォローをしたりしていました。学校現場での成功体験が、教職へ向けての意欲の糧になることを願っています。この取り組みが、大勢の学生の「教員になりたい」という気持ちを後押ししてくれるでしょう。ありがとうございました。4

今後に向けて

教職を目指す学生の方々から指導や支援をいただくこの事業は、ご本人にとっても受け入れる学校や子どもたちにとっても大変意義あるものだと思います。学校現場にとっては、学生のみなさんに支援していただくことで個に応じたきめ細かい指導が可能になったり、年齢の近さから教師とは違う関係性の中で児童生徒と関わってもらえたり、さらには教職を目指す学生のみなさんの姿に刺激を受け、教育活動が活性化されたりします。また、学生のみなさんにとっては教育実習以外に学校や教師の仕事、子どもたちの生の姿に触れることで、実習とは別の角度から教師という仕事や子どもたちをとらえ、子どもたちの中にある様々な個性等を理解する場として、貴重な時間となるのではないのでしょうか。

甲州市教育委員会として、今後ともより多くの学生に参加していただき、甲州市の子どもたちのために若い力をお借りしたいと考えています。さらに多くの学生のみなさんの参加を甲州市の子どもたちとともにお待ちしております。

末筆になりましたが、お世話いただいた山梨大学教育人間科学部教職支援室の先生方とご協力いただいた学生のみなさんに心より感謝いたします。今後とも本市へのご指導・ご支援をよろしく願いいたします。

「笛吹市学生ボランティア活用事業について」

笛吹市教育委員会
学校教育課 名取 紗耶加

1 はじめに

笛吹市では、2007年4月から笛吹市学生ボランティア活用事業を行っています。この事業は、教員志望の学生を市内の各小中学校で受け入れ、授業や課外活動等の支援をしていただくものです。

笛吹市教育委員会では、ボランティア活動保険への加入、交通費として謝金の支給をしています。

2 事業内容について

支援内容はTT(ティームティーチング)形式の授業、放課後・長期休業時の学習会、特別支援学級所属の児童生徒の学習補助、クラブ活動・部活動等の支援など多岐に渡っており、学校現場の様々な活動を経験することができます。これまでも、マラソン大会の練習や、運動会の準備又は当日の支援など体育行事から学習支援、また、給食指導や休み時間の活動にも積極的に支援いただきました。

学生の皆さんの支援により、受入先の学校では、児童・生徒へのきめ細かな指導が可能となり、学力の向上や指導の充実が図れます。また、みなさんの若い力が、学校現場での活性化にもつながります。そして、何よりも子供たちや教職員と接するなかで、現任教員の授業方法や子供たちへの接し方など、学校現場での現実的な対応を間近で見ることができるボランティア活動は、教員等教育関係のお仕事を目指す皆さんにとって、有益な機会となります。

積極的に活動へ参加していただける山梨大学のみなさんの登録を心からお待ちしています。

3 現場の先生からの声

子供たちと接する喜びをぜひ味わってほしいです。大変さを感じることも多いかもしれませんが、教師を目指すモチベーションにしてほしいです。/多くの学生に、教師という仕事のやりがいと楽しさを経験していただきたいです。/子供たちはボランティアの方々と関わることに對して、喜んでいきます。自分なりの視点を持って来校していただきたいです。/生徒にとって年齢的に近い存在として先輩としての姿を見せてほしいです。/ぜひ教員になってほしいです。

4 現場の様子



『教育ボランティア活動を振りかえって』

市川三郷町教育委員会
教育総務課 櫻井 茂

1 はじめに

市川三郷町では、2022（令和4）年度から教育ボランティア活用事業を実施しております。

多様化する社会の中、学校現場においても個別最適な学習と協働的な学習の進展を図る必要があります。教員を志す学生の皆さんには、学校内の様子や教育現場での経験、児童生徒とのふれあい等の場を提供することにより、多くのことを学び、児童生徒へのきめ細かな学習支援へのお手伝いを願いました。募集をいたしました。

本年度は前期2名の応募があり、小学校において積極的に活動をしていただきました。2名の学生さんには児童生徒に寄り添い、誠実に、真剣に、そして温かく熱心に支援・指導をしていただき心より感謝しております。

2 活動の実績

- (1) 活動校 上野小学校、六郷小学校
- (2) 内容 学習支援、授業のサポート、クラブ活動指導、行事参加 など
- (3) その他 活動を実施する前に、教育委員会、学校長、学生さんと打ち合わせを行い、活動日、活動時間の確認、調整、支援の内容など一緒に計画を立てました。

3 学校より

教育ボランティアとして活動することは、児童の実態を知ることができ、子どもの学習面でのつまづきやすいところや陥りやすいところ、様々な個性を持った子どもへの対応の難しさ等を感じることができると思います。また、教育実習とは違い、長期に渡って定期的に学校現場に関わることができます。その間には、教師の子どもへの対応の仕方、教師観、具体的な授業の展開や指導法などを目の当たりにすることで、吸収することや刺激を受けることも多いと思います。実習後にもボランティアを行うと、児童への寄り添い方や指導に、実習で学んだことを実践する場にもなります。

今、学校には、さまざまな課題が突きつけられていますが、どんな実践を目指すのか一人ひとりが考え、「自ら学び ともに育つ 教職員集団」を意識しながら、目の前の子どもたちの「自ら学ぶ」姿、「ともに育つ」姿を思い描きながら主体的に、協働的に、研究や実践を積み重ねていければと思っています。

学生の皆さん、「自ら学び ともに育つ 教職員集団」の一員として、積極的に学校に来ていただき、ともに学びを深めましょう。

4 おわりに

教育現場や児童生徒の様子を実際に感じるができるこの活動は、教員を目指す学生さんにとっては有意義な時間だと感じます。また、本町の児童生徒にとっても、若い学生さんからの指導は距離感も近く、楽しみながら学習ができたと思います。

今後も是非、多くの学生の皆さんに本町の応援団になっていただき、児童生徒への支援や指導をお願いいたします。

皆様のご活躍を期待しています。

「教育ボランティア活動の効果や反響について」

富士川町教育委員会 教育総務課

富士川町では、2014(平成26)年から「そよ風教室」と銘打って、学力の定着が十分でない児童・生徒へ、土曜日や夏休み等を活用した学習支援を行い、基礎学力の定着と学習意欲の向上を図ることを目的とした活動を行っています。

教室は「小学生の部」(午前)と「中学生の部」(午後)に分けており、それぞれ1回につき2時間開講しています。今年度は小学生の部・中学生の部共に全28回の開講を予定しております。講師については、退職した教員を中心に指導を行っておりますが、教育ボランティアの学生にも協力していただいております。今年度も山梨大学の学生3名に参加いただきました。

昨年度に引き続き、学生ボランティアを講師に迎えることは、とても有意義な活動だと感じました。今回参加した3名の学生についても、教えることに対して楽しさを感じているようで、回を重ねるごとに教え方も上手になってきており、積極的な姿勢が見て取れました。また、他のベテラン講師からも好評で来年度も是非来ていただきたいという声をいただいております。この場をお借りして、今回協力していただいた学生ボランティアに感謝申し上げます。

「新生 富士川中」を共に創造しましょう

富士川町立富士川中学校

教 頭 河野 直人

増穂中学校と鯉沢中学校の2校が統合し、新生富士川中学校がスタートしました。

新しい学校づくりとして「共創」を校訓とし、学校教育目標「ふるさと富士川町に誇りを持ち、新たな時代(未来)を切り拓く生徒の育成」の達成に向けスタートしました。

今年度の教育ボランティア活動では、昨年引き続き勝手をよく知っている学生さんに来ていただき、支援の必要な生徒への授業でのサポートや、先生方の事務処理の補助など、多岐にわたりご協力いただきました。その献身的な姿勢に心から感謝申し上げます。

授業支援では、生徒一人ひとりの理解度や背景に寄り添った柔軟な対応をしていただきました。我々教師側ではなかなか細かいところまで手が回りきらない部分を、教師側の指示を待つことなく自分の感性で素早く動き、適切な対応をしていた姿に、すでに教師としての資質能力が備わっていると確信しました。

先生方の事務処理をサポートしていただいたことでも、我々にとって多忙な学校現場における業務の負担がかなり軽減されました。どんなことに対しても迅速かつ丁寧に対応してくださったおかげで、先生方が授業や生徒指導など、生徒に向き合い、寄り添う時間が確保できたことは、学生さんのおかげです。

本校では、子どもたちと一緒に学び、笑い、汗をかける場がたくさんあります。自分自身も成長できる貴重な機会です。本校の教育ボランティアになって、子どもたちと共に汗を流し、成長を喜び合ってくれる学生さんをお待ちしています。

教育ボランティアによる教育サポート事業について

富士河口湖町教育委員会
教育センター所長 渡邊 敏

1 はじめに

富士河口湖町は、2018(平成 30)年 1 月に山梨大学と包括的連携協定を締結しました。具体的な取組の 1 つとして、教育ボランティアによる教育サポート事業があります。本町独自で 2016(平成 28)年度から実施している長期休業中の「学習応援教室」の学習支援に、山梨大学の学生の皆さんに参加していただくというものです。

本年度は、3名の学生さんから応募があり、町費負担教員や学校生活支援員、OB教員と一緒に、町内小中学校で学習支援をしていただきました。日程や都合等が合わず今回は、2名の参加となってしまいました。応募していただいた学生さんには感謝しております。

2 学習応援教室

(1) 目的

- ①長期休業中の児童生徒の主体的な学び、問題解決の学習支援を行う。
- ②普段、家庭において 1 人では学習できない子どもたちを支援する機会とする。

(2) 実施方法

- ①会場:町内各小中学校(10 会場) 全校 1 つの教室や学年・低中高ごと時間や教室を分けて実施する等、各学校の実情に応じて実施。
- ②方法:長期休業中の課題や家庭学習のうち、自分で「分からないこと」について質問して教えてもらう。どの教科でも 1 つでも良い。

3 活動の様子

<夏季休業中>

- ・2名の学生が参加できました。
- ・小中学校への参加を依頼しました。
- ・学校の都合で午後の実施となった学校もありました。
- ・町費負担教員と学校生活支援員と一緒に実施しました。
- ・先生方より、「生徒とも年が近く、生徒にとっては親しみやすく、学習に熱心に取り組む様子が見られました。」という感想がありました。

<冬季休業中>

- ・1名の学生が参加しました。
- ・中学校への参加を依頼しました。
- ・学生の都合で1日の参加でしたが、生徒に寄り添って指導や助言をしていました。

4 終わりに

本事業にご協力いただいた学生さんに大変感謝しております。今まで参加した学生さんの中には実際に教員となり、郡内の中学校に勤務している先輩もいます。以前その先生と話しをする中で、この体験が役に立っていますと言っていました。今後も多くの志のある学生の皆さんのご参加を待っています。



高等学校における教育ボランティアについて

山梨県教育委員会高校教育課
高校教育指導監 數野浩司

1 教育ボランティアについて

2024年度から生徒へのきめ細かな支援の充実と学生の高校教育への理解を図るために、県立高校において教育ボランティアを実施しています。

2026年度についても、学生の皆様と高校の希望を聞き取りながら総合的な探究の時間、各教科、クラス経営などにおいて実施をしていく予定です。

2 2025年度の実施内容について

2025年度は、次のように高等学校における教育ボランティアを実施できました。(参考：2024年度1名)

(1)参加学生数：10名

前期：3名(教育学部3名)

後期：4名(教育学部3名、工学部1名)

通年：3名(教育学部3名)

(2)内 容：総合的な探究の時間における生徒の探究活動の相談対応、教科指導の補助

(3)その他：学生の希望により、教科の授業の参観等を実施

3 成果と課題等について

2025年度は、北杜高等学校、韮崎高等学校、甲府第一高等学校、甲府西高等学校、甲府南高等学校、甲府城西高等学校のご協力をいただき実施することができました。成果は次のとおりです。

(1) 県教育委員会では、ガイダンス時に希望票を述べ50枚用意しておきましたが、枚数が不足するほど、県教育委員会のブースに多くの学生の皆様が来てくださったことは、皆様の高校教育に対する姿勢と大学の事前の仕組みの構築や周知のおかげだと思っています。

(2) 実施にあたり、総合的な探究の時間における生徒の探究活動の相談対応、教科指導の補助が内容であることを、県立高校に周知した上で学生の皆様にお知らせできたことで、学生と高校がマッチングした後の内容面での円滑なマッチングが実現しました。

(3) 活動時間の決定プロセスについては、優先順位として学生の大学での時間割→次いで、高校の時間割とのすりあわせ→総合的な探究の時間や教科の時間でのボランティア活動時間決定としました。学生の皆様にとって無理のない教育ボランティアが実現できたと思います。

今後の課題については、教科の補助におけるボランティア活動が大学・高校の時間割の関係で継続的な補助につながらなかったことを踏まえ、高校教員を仲介としたオンラインの活用などの改善を検討していくことがあげられます。また、高等支援学校のボランティアについて、学生の皆様に継続して周知していくことも今後の課題です。

4 2026年度の実施について

高等学校における教育ボランティアは、高校教員を目指す学生の皆様にとって、高等学校への支援を通してその様子を知るキャリア教育の視点からも重要だと考えています。小・中・特別支援の教師を目指している学生の皆様にとっても、学びの接続・連携という観点からも意味のあることだと考えます。この取組を、学校現場と協力して学生の皆様が安心して充実した活動ができるようにしていきたいと考えています。一人でも多くの学生の皆様のご参加をお待ちしております。

不易流行

山梨市立山梨小学校

校長 日原 英二

昨今の教育現場には、教育のデジタル化、働き方改革など新しいうねりが押し寄せています。

授業の中に ICT を取り入れ、個別最適な学び、協働的な学びによって学習を進めていくことが求められています。しかし、学校では、教師と児童が教室で学習することには変わりはありません。そのためには人と人との人間関係を築くことが第一ではないかと思えます。ICT だけでは人と人との人間関係を築くことはできません。学生の皆さんも学生ボランティアとして教室に入り、子ども達の学習する様子、生活する様子をつぶさに見て、子ども達と対話し、人と人とのつながりを感じたことと思えます。また、我々教職員は子ども達に勉強を教え、学力を身に付けさせるというのが大切な使命です。しかし、それだけでなく、子ども達に対して、未来に向かって人としての道を示していくという使命があります。そのために日夜努力しています。それは、とてもやりがいのある仕事であると感じています。

学生のみなさんは、これから自分の未来を決めていくことと思えます。世間で言われるように「教育現場はブラックだ。」と考え、二の足を踏んでいる学生の人もいるかもしれません。しかし、学生ボランティアとして学校現場に入り、実際に自分の目で見て聞いて感じてみてください。体験することが大切だと思います。

令和8年度も本校ではボランティアを募集します。本校の子ども達も先生方も本当に良い人ばかりです。ぜひ、大勢の方のご参加をお待ちしています。今年度、学生ボランティアに来ていただいた皆さん、本当にありがとうございます！！山梨小を代表して感謝の気持ちを伝えたいと思います。

山梨市立日川小学校における教育ボランティアの様子

山梨市立日川小学校

教諭 高野 恵美子

本校では、2024（令和6）年度より教育ボランティアの募集を行いました。そして、今年度、待ちに待った教育ボランティアの方に来ていただけることになりました。

児童の実態や来ていただける日の時間割からスケジュールを組み、低学年から高学年までの児童の学習支援をしていただきました。そのおかげで、個に応じた学習や活動を充実させることができました。また、授業中、担任以外に支援してくれる人がいることで子どもが困ったときにすぐに対応できたり待たせる時間が短くなったりするメリットもありました。そのほかにもプリントの丸つけ等にも力を貸していただき、とても助かりました。

休み時間には、子どもたちと校庭で遊ぶ姿が見られました。おにっごをするときには、全力で子どもたちを追いかけ、真剣に子どもたちと向きあっているのが、子どもたちは一緒に遊んでもらうのをとても楽しみにしていました。

職員室ではいろいろな立場の教職員とコミュニケーションを取り、明るく謙虚で子ども好きな素敵な魅力がいつもあふれていました。教職員や子どもへの接し方、授業支援の仕方を見ていると、現段階ですでに担任として立派に務めることができる実力を備えていると思えました。

最後に本校での教育ボランティアの経験が、将来教職に就いたときの糧となれば幸いです。教育ボランティアに来ていただき、お力添えをいただいたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。

「次代を担う皆さんへ」

駿台甲府学園 駿台甲府小学校
副校長 山下 潤

教育ボランティアとして、本校の教育活動に尽力して下さった皆さんに心より感謝申し上げます。現場での活動を通じ、皆さんは多くのことを学ばれたことと思います。子どもたちの小さな成長の兆し、一人ひとりの個性に寄り添うことの奥深さなど、教科書には載っていない「生きた教育」の姿がそこにはあったのではないのでしょうか。子どもたちにとって、皆さんは先生でも親でもない、少し年上の頼もしい存在であったと思います。皆さんの真摯な眼差しや、一緒に遊んだ時間は、子どもたちの心に確かな足跡を残しました。同時に、皆さん自身も子どもたちの純粋な反応に触れ、人を育てることの責任と喜びを肌で感じたことと思います。教職を目指す方も、異なる道を歩む方も、この「教育」という現場で得た経験を大切に持ち続けてください。梨大OBとして、皆さんがこれからの教育や社会で活躍することを心より期待しています。

「駿台甲府中学校へようこそ！」

駿台甲府中学校
副校長 鹿山さおり

甲府駅から西へ15分、駿台甲府塩部キャンパスに高等学校普通科、通信教育課程と敷地を同じくして、駿台甲府中学校があります。アルプス通りに面した7階建ての白い建物を目にした方も多いでしょう。特徴は施設ばかりではなく、私立ならではのカリキュラムや学校行事もまた然りです。

中高6年一貫教育のカリキュラムでは、中学3年生で高校分野の学習を始めます。また、3年間で100時間を超える理科実験やICT教材を活用した学習コンテンツ（AI英会話・記憶定着アプリ他）など、特徴ある授業を展開しています。

校外活動では山梨県を飛び出し、劇団四季のミュージカル鑑賞、東急ホテルでのテーブルマナー教室などの一日研修や、軽井沢・箱根にある本学の研修施設を利用した2泊3日の合宿や、1泊2日のスキー教室も生徒が楽しみにしている行事です。

おそらく学生のみなさんの大多数は、公立中学校出身かもしれません。これから教師を目指す、あるいは教育関係の仕事に就こうという学生のみなさん、特色ある私学に、ぜひ一度お越しください。「百聞は一見に如かず」という月並みなことわざですが、見るもの、聞くものすべてが新鮮で、これからの進路選択の一助となるでしょう。

右の写真は富士登山で、5合目から河口湖を見下ろしている場面ですが、立ち位置が変わると見えるものが異なります。そんな経験をしてみてはいかがでしょうか。



みなさんの力を求めています

駿台甲府高等学校 普通科

副校長 小高 淳

駿台甲府学園では、これまで小学校と中学校に多くのボランティアの学生さんに来てもらっていました。私自身が昨年まで小学校に勤務し、多くの学生さんと関わってきましたが、子どもたちとしっかり向き合って活動をしてくれ、本校の学童では、とても貴重な存在でした。

今年度、高校の普通科に異動になり、高校でも学生さんに来てもらおうと思い、今年度活動をお願いしたところ、本校の卒業生2名を含む、5名の学生さんに来てもらうことができました。どの学生さんも、ボランティアとしての活動はもちろんのこと、自らの今後のためにと、積極的に活動してくれました。部活動への支援をしてくれた学生さんも多く、各部活動の顧問からは、継続して指導してもらいたいという言葉も寄せられました。

本校は、駿台予備学校を母体とする私立学校です。最新の情報や、教材、指導方法などを随時取り入れながら日々の授業を行っています。公立の学校とは少し違う、私立ならではの体験をしたい学生さんは、ぜひ本学園に来てみてください。学生さんたちの力は、本学園だけではなく、すべての学校・団体に期待されています。今後もよろしくお願ひします。

甲陵高校教育ボランティア

北杜市立甲陵高等学校

教頭 櫻井 利行

1. 甲陵高校では以下の内容で、教育ボランティアを受け入れています。

(1) 内容：放課後（16時以降）の学習指導・進路等の相談アドバイス

学習指導だけでなく、進路選択、大学選択に関するアドバイスもしていただいています。時には大学で学んでいる専門分野に関する話などがあると、本校の生徒には非常に刺激となり学習のモチベーションを高めるのに役立ちます。また、専門的な知識を生かして、高校における探究活動（文系・理系）に対する、研究方法・レポートのまとめ方・プレゼンテーションの仕方などに関する助言も期待しています。

(2) 教科：国語・数学・地歴公民・理科（物理、化学、生物）・英語

(3) 目的 ①本校生徒に対して学習・進路指導のボランティアを行います。

②大学生に高校における指導経験の機会を提供します。

(4) 日時：月曜日～金曜日16:00～18:30の中で相談により時間や回数等を決定します。

2. 甲陵高等学校の概況

(1) 八ヶ岳南麓の北杜市が設置する市立の中高一貫校（県内唯一の公立併設型中高一貫校）

(2) 全日制・単位制普通科1学年120名4学級全校生徒数360名、教員数50名

(3) 山梨県内有数の進学校であり、SSH指定校（3期目）として探究活動にも力を入れています。一方、クラブ活動や生徒会活動、国際交流活動なども盛んです。

担当：教頭 櫻井利行 電話：0551-32-3050 E-Mail：tosi-s@yamanashi-koryo-h.ed.jp

教育ボランティアを募集しています

児童養護施設 明生学園園長 榊原 宏

明生学園は甲斐市竜王の信玄橋のたもとに位置しています。現在、小学校6年生から19歳までの児童19名が生活しています。今年度は、発達に課題を抱えた児童、知的な障害や精神的に疾患を抱えた児童、将来に不安を抱えた思春期の児童の学習支援にご協力いただきました。様々な学びの困難さを抱えた児童に対し、我々支援者側のオーダーの意図を理解し、適切な学習支援をしてくださいました。それに加え、教育ボランティアの皆様自らの創意と工夫を以て、児童の状態に合わせた関わりを実践してくださいました。皆様方の親身なご指導の結果、活動時間以上の学習支援効果を上げることができたと実感しています。施設での生活は、食べる、寝る、遊ぶなどの日常的な行動を中心に構成されています。この行動は、毎日自然に行っていることなので、一見すると、高度な専門性が求められるとは考えにくいのですが、子どもが当たり前前の生活行動をスムーズに行えるのは、世話をされ、教えられ、ほめられてきた、幼少期からの経験の蓄積があるからなのです。逆に、放置され、強制され、脅かされて育ってきた子どもは、どこかスムーズでないところがあって当然なのです。ですから、施設で生活している子どもたちにとって、「普通」というのは努力目標であって、決して最低基準ではないのです。こういった子どもたちが抱える問題に対する支援と配慮は、生活のあらゆる場面で求められますが、特に学習支援は大切な取り組みであると考えています。子ども一人ひとりがそれぞれに問題を抱えているので、一律に全員同じ関わりはできません。だからこそ皆さんのお力添えが必要です。教育と福祉の立場の違いを超えて、それぞれの子どもが抱える問題を理解し、どのような配慮と支援が必要かを判断しながら関わっていくことが、教育ボランティアの醍醐味であると考えています。

子どもたちが学ぶことを諦めず、自分なりの学習効果を出すことができたことに感謝申し上げると共に、皆様方の今後のご活躍をお祈り申し上げます。

附属小学校における教育ボランティアの様子

山梨大学教育学部附属小学校

主幹教諭 入月 安奈

今年度は8名の方にボランティアとして参加いただき、主に授業の指導補助をしていただきました。附属小では例年、配属学年を決めてボランティア活動を行っています。同じ子供たちに継続して関わることで、児童の実態に合わせて声かけをしたり、指導補助をしたりときめ細かな活動をしていただきました。また、学校行事の準備など、子供たちと直接触れ合わないこともお手伝いいただきました。見えないところでの準備等が子供たちの充実した活動につながりました。校内行事等の関係で今年度の活動は前期のみとさせていただきますが、何名かの方に「後期も参加できますか?」とお問い合わせいただきました。後期も受け入れ可能日が少ない中、継続して参加していただいたり、急遽、校外学習の付き添いをしていただいたり、臨機応変に活動していただきました。力を貸していただきとても助かりました。

現場の教師からすると、授業中に支援してくれる人がいつも教室にいるということは大変ありがたく、心強いことです。そして、支援してくれる人がいることが学習指導や安全面の充実につながります。職員の一員として活動して下さったボランティアの皆さんに感謝いたします。ありがとうございました。附属小でのボランティアの経験が、少しでも皆さんの糧となれば幸いです。

「百聞は一見にしかず」

山梨大学教育学部附属中学校

教諭 奥田 陽介

本校では、2012（平成24）年度から教育ボランティアを活用させていただいております。これまでに多くの学生の皆さんに授業補助や部活動支援などで本校の教育に携わっていただきました。

本校には学習意欲が高くハイレベルな学習を望む生徒が多いですが、学習につまずく生徒や集団にうまくなじめない生徒など、様々な生徒がいます。そのような生徒に対して、学生の皆さんは個別に優しく指導して下さるので、皆さんとともに活動することを楽しみにしている生徒も多数おります。また、教育ボランティアの皆さんのサポートが、スムーズかつ効果的な授業展開を生み出すので、本校の教師・生徒にとっても有意義なものとなっています。

部活動においても、教育ボランティアの皆さんが運動部・文化部を問わず多くの部活動の支援に積極的に関わり、熱心に指導して下さっています。皆さんの専門的な指導により、生徒の活動意欲は高まり、各種大会やコンクール等の好成績につなげることができました。

「個別最適な学び」や「協働的な学び」、「複線型授業」のように現在の教育現場は「一人ひとりの学び」や「他者との関わりから生まれる学び」を大切にしています。そのような中で、教育ボランティアとして教育現場に携わることは学生の皆さんにとっても、中学生が何を考え、何に興味を持っているかを理解したり、中学校教師の授業方法、GIGA スクール構想の進展などを直に感じたり、教育現場に対する見方や考え方が深まるよい機会になると思います。

皆さんがこれまで経験してきたこと、一生懸命に取り組んできたことを中学生に伝えてみませんか。生徒とともに学び、生徒とともに汗をかくことで、新たな発見があると思います！！。

「関わることで育つ力」

山梨大学教育学部附属特別支援学校

教諭 出戸 努

教育ボランティア活動に参加した皆さん、本当にお疲れさまでした。現場で子どもや学習者と向き合い、思うようにいったこともあれば、戸惑いや難しさを感じた場面もあったのではないのでしょうか。その一つひとつが、教室や教科書の中だけでは得られない、かけがえのない学びです。まずは、うまくできたかどうかだけで判断せず、「何を感じ、何を考えたのか」を丁寧に振り返ってみてください。自分の言葉かけで相手の表情が変わった瞬間、伝えたいことが伝わらなかった理由、支援する立場としての喜びや葛藤など、そこには多くの気づきがあるはずです。

この経験を通して学んだことは、教育の場面に限らず、皆さんの将来の進路や社会生活の中でも必ず生きてきます。相手の立場に立って考える力、状況に応じて工夫する柔軟性、うまくいかない中でも粘り強く関わり続ける姿勢は、どの分野でも求められる力です。また、完璧でなくても「関わろうとすること」そのものに価値があると気づけたなら、それは大きな成長です。

今回のボランティアを一度きりの経験で終わらせず、ぜひ今後の学びや行動につなげてください。教育に関心をもった人は、さらに専門的に学ぶ道を考えてもよいでしょうし、別の分野に進む人も、この経験を通して得た視点を大切にしてください。皆さん一人ひとりの経験が、誰かを支え、社会をより良くする力になることを期待しています。

「幼稚園のボランティア活動」

山梨大学教育学部附属幼稚園

幼稚園教諭 泉 紗恵

1. ボランティアの活動内容

幼稚園では、運動会、遠足、発表会などの行事の際の準備や保育補助など、園児と一緒に行事を楽しみながらの活動、また、地域の未就園児とその保護者が参加する行事において、園の案内や環境整備などの職員のサポートをいただいています。

ボランティアの学生の皆さまのご協力、毎年感謝いたします。幼稚園で経験したことを通して、少しでも幼稚園の現場が楽しいと感じていただければ幸いです。これからもぜひ、参加していただければと思っています。

「山梨大学附属図書館子ども図書室学生ボランティア活動」

山梨大学子ども図書室専門委員会

「山梨大学附属図書館子ども図書室」は、4,600冊以上の絵本・児童書を配架する親子で読書を楽しむスペースです。2022年5月には開室20周年を迎えました。学生ボランティアの主な活動は、週3回の「子ども図書室」の開室（月・水・土曜日の13:00～16:00）と季節のイベントの開催です。昨年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開室日を減らし、感染対策を徹底して安全な運営を心がけました。今年度から感染予防をしながら、少しずつ対面でのイベントも再開し、12月にはクリスマス会を開催し、また1月にはさわる絵本の読み聞かせ会などをすることができました。

「子ども図書室」の素晴らしいところは、リーダーを中心に、学生ボランティアが年度の方針・活動内容を決めていることです。開室は、月末に担当可能日を報告しあってシフトを組んでいます。授業などの自分の都合に合わせて参加できますが、小さな子どもたちを対象とした活動を学生が力を合わせて行っていますので、責任感を持って参加することが大切なこととなってきます。授業で学んだ知識を活動に活かすこともでき、就学前後の子どもたちの自然な姿や親子の関わりを見たり、工夫を凝らしながら、ICTを活用した子育て支援を検討したりするなど、授業では学べない多くのことを得る良い機会となります。これからも、学生のみなさんの積極的な参加によって、学生主体の他には類を見ない「子ども図書室」の活動が、より充実していくことを期待しています。

ICT 支援学生（山梨大学教育学部附属小学校・中学校）募集

山梨大学教育学部 稲垣 俊介

ICT を活用した教育は、これからの学校現場で欠かせない力です。本活動では、附属小学校・附属中学校での支援に加え、活動を支える研修会を通して、児童生徒の学びを支える「ICT 支援」を体系的に学びます。

研修について（本活動の中心）

研修会では、活動で起きた困りごとや気づきを共有し、「どう支援すれば学びが進むか」を参加者同士で検討します。説明のしかた、声かけ、困りごとの切り分け、授業の流れを止めない関わり方など、現場で本当に必要になる力を、研修と活動の往還で身につけていきます。例えば、「どこで止まっているのか（入力・ログイン・操作・理解）」を整理し、短い言葉で伝える練習も行います。支援がうまくいかなかった場面も大切な教材として扱い、次回どう改善するかまで具体的に考えます。ICT が得意でなくても構いません。大切なのは、より良い教育を届けたい気持ちと、児童生徒に寄り添う姿勢です。

活動場所

山梨大学教育学部附属小学校・山梨大学教育学部附属中学校・山梨大学（教育学部）

主な活動内容（例）

- ・授業中の端末活用の支援（文字入力、ログイン、端末準備などで止まった児童生徒の支援）
- ・作品づくりや共有活動の支援（記録づくり、意見共有、共有作業のルール確認や声かけ）
- ・調べ学習の支援（検索の工夫、要点整理、まとめ方の支援）
- ・授業前後の準備や休み時間の見守り（配布・回収、接続確認、場面に応じた切替の支援）

最後に

学校現場は、ICT を活用して授業を進められる教員を求めています。本活動は、そのスキルを実践的に身につけるチャンスです。経験を積み、振り返り、言語化できるようになると、面接でも「自分の強み」として具体的にアピールできます。教育実習だけでは得にくい「日常の授業支援」の経験が積める点も大きな価値です。将来、現場で信頼される教員を目指す方の参加をお待ちしています。



ICT活用の理論と実践を兼ね備えた教員を目指しませんか

ICT支援学生 募集中

ICT指導経験を積めます 研修が受けられます 苦手でも大丈夫です

附属小中学校でのボランティア

- ・児童・生徒の端末操作の支援
- ・休み時間での端末の留守り
- ・ICTに関する児童生徒向けの解説の資料作成
- ・端末やアカウント管理の補助 など

↓お申し込みはこちら↓



(主催) 附属教育実践総合センターやまなし情報教育推進室
(お問い合わせ) 担当 稲垣俊介 s.inagaki@yamanashi.ac.jp

令和7年度 教育ボランティア学生運営委員から

◎委員長 科学教育コース3年 古屋 祥汰

委員長の古屋祥汰です。運営委員会では、教ボラガイダンス等の企画・運営や、教ボラ関連情報の発信などを行っています。様々なコース・系の委員がおり、教科の垣根を超えた交流をすることができ、良い経験になること間違いなしです！興味を持ってくれたみなさん、私たちと一緒に活動しましょう！

○副委員長 特別プログラム3年 岩下 和紗

大学で委員会…？と聞くとなんだか堅苦しそうに感じますが、教職支援室の先生方もとってもお茶目でワイワイと楽しみながら会の運営を行っています。教ボラに参加するだけでなく、その裏側を支えることで初めて見えてくるものが多くあります。みなさんもぜひ「こちら側」へいらっしゃいませんか？

・委員 障害児教育コース3年 伊藤 実優

私は学生運営委員会に2年生から加入しましたが、皆さんあたたかく迎え入れてくれました。委員会では学生が中心となり、教ボラガイダンスの運営などの活動をおこなっています。学年やコースを超えて和気あいあいと楽しい雰囲気です。ぜひ気軽に参加していただければと思います。

・委員 障害児教育コース3年 岩澤 胡春

今年度も教ボラ学生運営委員会の運営に携わらせていただき、将来につながる実践的な学びを得ることができました。今後も教育ボランティアを通して沢山の経験を積むことができたら、と考えています。学生運営委員会でも、新しい交流ができれば嬉しいです。ぜひ一緒に活動しましょう！

・委員 障害児教育コース3年 小林 実々

委員会では主に、教育ボランティアガイダンスブックの製本や作成、説明会の運営、会場準備等を、コース、学年の垣根を越えた学生が主体となって行っています。教ボラ参加者ではなく、運営側として、教育ボランティア受入先と学生を繋ぐ立場となり、新たな視点や貴重な学びを得ることができました。

・委員 障害児教育コース3年 山部 果凜

教ボラ学生運営委員会では、教ボラガイダンスや報告会の企画・運営を行っています。学年やコースの垣根を越え、和気あいあいとした雰囲気の中で様々なことを知る機会になります。一緒に活動してくれる学生をいつでも募集していますので、興味のある方はぜひ私たちと一緒に活動してみませんか。

・委員 言語教育コース3年 後藤 瑠花

この委員会では、名前の通り教育ボランティアの運営を行っています。教ボラガイダンスの資料作成や会場準備、ガイダンスブックの編集作業など、難しいものではありません。様々なコース、学年の学生と交流できて非常に楽しいです。少しでも興味がある方はぜひ運営委員会に来てください！

・委員 生活社会教育コース3年 長谷川 鈴

委員会活動では、他コースの学生や教職支援室の先生方と交流を深めることができます。それぞれが自分の役割を果たし、毎回有意義な時間を過ごしています。委員会で一緒に活動してくれる仲間を募集中です！主体性や協調性を身に付ける良い機会となると思います。ぜひお待ちしております！

・障害児教育コース2年 渡辺 聖

今年度から運営委員会に参加しました。教ボラへの参加も初めてで分からないことも多くありましたが、委員のみんなと和気あいあいとした雰囲気の中で楽しく活動することができました。互いに支え合いながら活動できたことは、私にとって大きな学びとなりました。来年度も楽しく活動したいです。

・委員 障害児教育コース1年 入倉 舞衣

教育ボランティア活動を通して、授業などで身につけた知識を、教育現場の中でどのように活用できるのかを実践的に考えることができました。実際の学校に足を運び、子どもや教職員と関わる中で、講義だけでは得られない現場ならではの学びを数多く経験できたと感じています。また、教育ボランティア委員として一年過ごして教育ボランティアの大切さや関わってくださる先生方の思いも知ることができました。ぜひ一緒に活動しましょう！

・委員 障害児教育コース1年 岩堀 心音

教育ボランティア学生運営委員会では、受付対応や活動の記録、ポスター作成、ガイダンスの準備・運営などを学生が中心となって行っています。委員会での活動を通して、教育ボランティアの役割や意義について深く考えることができました。また、学年を超えた交流から多くの学びや気づきを得られる委員会です。少しでも興味があれば、ぜひ参加してみてください。

・委員 障害児教育コース1年 江川 歩花

今年度から学生運営委員として、委員会の活動に関わらせていただきました。さまざまな取り組みを知る中で、教育ボランティアには多くの魅力があると感じています。貴重な経験になると思いますので、興味のある方はぜひ気軽に参加してみてください。皆様のご参加をお待ちしています。

・委員 障害児教育コース1年 川上 紗來

友達に誘われて参加した教育ボランティア学生運営委員会は、学年やコースを越えて和やかな雰囲気の中で活動している委員会だと感じました。主にガイダンス資料の作成や会場準備など、無理なく取り組める仕事を中心です。企画から運営までを学生が主体となって進めており、自分たちの力で委員会を動かしている実感を得ることができます。

・委員 障害児教育コース1年 川村 羽澄

教育ボランティア学生運営委員会では、行事の準備や当日の運営補助などを担当しました。円滑な運営のために周囲と声を掛け合い、役割を意識して行動することの大切さを学びました。また、学年やコースの異なる学生と協力する中で、責任感や主体性も身についたと感じています。この経験を今後の

大学生活にも生かし、積極的に参加していきたいです。

・委員 障害児教育コース 1年 中村 千咲

教育ボランティアをするだけでなく、その運営の裏側に携わることで、活動が多くの人の支えによって成り立っていることを実感しました。資料作成や準備など表からは見えにくい役割の大切さを学ぶことができ、分かりやすいものではポスターなど目につくところに自分の成果が形として表れ、やりがいも感じています。先輩方が丁寧にサポートして下さるため、1年生でも安心して活動できます。ぜひ一緒に活動しましょう！

・委員 障害児教育コース1年 山本 彩葉

この委員会では、教育ボランティアが円滑に実施できるよう取り組んでいます。活動を通して、大学で学んだ知識を実際の現場と結び付けて考える力が身に付きました。また、他学年・他コースの学生と協力することで、多くの学びや刺激を得ています。温かい雰囲気の中で、やりがいを感じながら活動できる委員会です。来年も積極的に活動に参加していきたいです。



教育ボランティアニュース No.7

～教育ボランティアについての理解を深めよう！！～

2025年4月22日 教育ボランティア学生運営委員会

教育ボランティアスタートセミナー・・・4月9日（水）開催

4月9日に令和7年度教育ボランティアスタートセミナーが開催されました。今回のセミナーでは、教育ボランティア学生運営委員長・委員代表のお話やグループ協議、甲斐市立敷島小学校校長の久保田勲先生からのお話がありました。教育ボランティア活動を初めて行う学生にとって、疑問や不安を解消し、今後の活動への参加と意欲が高まる機会となったと思います。本ニュースでは、本会の様子についてご報告いたします。

初めに、教育ボランティア学生運営委員長からは、教育ボランティアの経験から「子どもと関わる機会の大切さ」についてお話がありました。委員代表からは、教育ボランティアの具体的な活動内容ややりがいを感じさせてくれるお話がありました。教育ボランティアでは、児童生徒の実態を知ることができ、教員になったときのイメージを持つことができる貴重な機会となったと説明してくれました。

次に、「教育ボランティアの疑問を解消しよう」をテーマにして、各コースの先輩を交えたグループ討議が行われました。具体的な活動内容、身だしなみ等の活動に関する疑問や授業・アルバイトとの両立等の不安を共有し合い、先輩たちからのアドバイスをもらえる時間となりました。これから教育ボランティアを始める学生にとって、疑問や不安を解消する討議となり、これからの活動にわくわくする場になったと思います。

最後に、甲斐市立敷島小学校校長の久保田勲先生からのお話がありました。教育ボランティアのメリットとして、自分の希望する校種だけでなく、異校種の現場を知る機会となり、自分の将来の仕事に生かすことができると教えていただきました。また、受け入れ先からの視点として、「ぜひ教員になってもらいたい」という温かい思いで受け入れていること、教育ボランティアの経験を「自分の糧」にしてほしいとお話がありました。貴重なお話を聞くことができ、これからの教育ボランティアの見通しをもつことができました。

本会では、1年生をはじめとした46名の学生が参加し、充実した時間となりました。本学期も多くの学生が教育ボランティアに参加していただくと嬉しいです。



【参加者のアンケートより】

- ・ボランティアという立場が、自分たちからしたらボランティアでも、子供達からしたら1人の先生だということを知った。また、子供が大好きだけど子供と関わる機会がなくて困っていたので、絶対に教育ボランティアに参加したいと思った。
- ・実際にボランティアに参加している先輩方の話を聞くことが出来てとても参考になった。
- ・実際の教育現場の方のお話は自分たち大学生とはまた違った視点でためになった。
- ・自分が目指している校種以外にも参加することの大切さを知ることができました。教員になるまでに身につけられるスキルをたくさん得られるよう取り組んでいきたいです。

教育ボランティアニュース No.8

～教育ボランティアについて詳しく知ろう！！～

2025年4月28日 教育ボランティア学生運営委員会

前期教育ボランティアガイダンス・・・4月16日（水）開催

4月16日に令和7年度前期教育ボランティアガイダンスが開催されました。

参加者153名、受け入れ先は25機関の担当者の方にお越しいただきました。本通信では本会の様子についてご報告させていただきます。

今回のガイダンスでは、長谷川教育学部長をはじめ、教育ボランティア委員長、学生運営委員より、教育ボランティアの意義やボランティアをするに当たっての心構えについてのお話をいただきました。

また地域学習アシスト事業やICT支援学生ボランティア事業についてもお話がありました。教員になった際に大きな力となる課題解決に向けた取組を行うなどの実践力や、ICTの活用が進んでいる現在の教育現場において必要とされる技術を身につけられる大変魅力のある事業だにご紹介いただきました。



教育ボランティア活動では、その日の活動が終わったらずぐにキャリアポに活動の記録を入力することで、その日の振り返りを自身で行うことができます。次の活動の際に前回の反省を生かせるので、教育ボランティアをより実りのあるものにする事ができると、キャリアポの効果的な活用について教えていただきました。

受け入れ先からのガイダンスでは、25の受け入れ先の担当者の方々から、それぞれの教育ボランティアの具体的な内容や、これまでに活動に参加した先輩たちの様子について、お話をいただきました。また、ガイダンスに参加した学生たちに向けて、今後の活動への期待や励ましのメッセージも寄せられました。

ガイダンスの後半には、各受け入れ先のブースに分かれての質疑応答の時間が設けられ、学生たちは関心のある団体のブースを訪れ、さらに詳しい活動内容や実際の申し込み方法、必要な準備などについて、疑問に思ったことを積極的に質問していました。ブースでは、担当者の方々から学生一人一人の質問に丁寧に答えくださり、学生たちにとって非常に有意義な時間となっていました。

1年生にとっては、初めての教育ボランティアで不安や緊張も多いことと思います。しかし、真剣な表情で話を聞き、自ら主体的に動く姿が見られ、教育ボランティアに対する理解や意識を着実に深めている様子がうかがえました。今回のガイダンスが、今後の活動に向けた一歩を踏み出すきっかけとなった学生も多かったのではないかと思います。

教育ボランティアに参加したいけれど迷っている方や教育現場についてわからないことがある方など、ぜひ後期（10月）のガイダンスに参加してください。前期に参加していない方も後期から参加することができます。その他質問等があれば私たち学生運営委員もお答えします。

北杜市立泉小学校・・・7月17日（木）訪問

訪問者：渡邊 昭二郎

泉小学校は、山梨県の北西部、「山紫水明」の地として知られる北杜市大泉町に位置しています。学校教育目標に《郷土を愛し夢を持ち続けながら未来を拓く》「かしこくゆたかにたくましい児童の育成」を掲げ、「よく考え進んで学ぶ子」「心豊かで助け合う子」「たくましくじょうぶな子」の育成を目指しています。また、創立以来、家庭の教育力や地域の協力を基盤とし、恵まれた大自然を教材として取り入れながら、心身共に健康で、自立して社会を支える力を育む学習活動を展開しています。

今回は、芸術身体教育コース4年の齊藤愛梨咲さんが、4年生の教室で教育ボランティアとして活動している様子を訪問しました。理科の授業で育てているゴーヤ畑の草取りでは、一人一人の様子を把握しながら、「この草を取ろうか」と、優しく声をかけている姿が印象的でした。子どもたちとのやりとりからは、愛梨咲さんが慕われ、頼りにされていることがよく伝わってきました。



「いっしょにサッカーをして遊んでくれたよ！」

児童の気持ちに寄り添いながら学習を支援する齋藤さんの様子



「だれにでも、とてもやさしい先生だよ！」

【教育ボランティア学生インタビュー】

「教育ボランティアをやってみようと思ったのはなぜですか？」

教育実習を経て「教員になりたい」という思いが強まり、教壇に立つ前に現場の様子をより深く知りたと思ったからです。また、子どもと関わる経験を重ね、指導力を高めたいと思ったことがきっかけです。

「教育ボランティア活動を通じて気づいたことや、受け入れ先の先生方や子どもたちから学んだことは何ですか？」

様々な学年の児童と関わり、一人一人の個性や発達段階に応じた関わり方を学びました。また、先生方の柔軟な対応や、子どものやる気を引き出す声かけの工夫など、日々の実践から見て学ぶことが多いです。

「これから教育ボランティア活動を始めようと考えている学生へのアドバイスは？」

教育ボランティアは、教育現場のリアルを体感し、子どもと関わりながら学べる貴重な機会です。また、進路や理想の教師像を考える上で大きなヒントになると思います。

【石川 博之校長先生のお話】

昨年度に続く活動となった学生ボランティアです。率先して児童と関わり、その積極的な姿勢が大変印象的でした。活動が進むにつれ、状況に応じて自ら考え、柔軟な対応ができるようになり、児童の中にすぐに馴染む明るく穏やかな人柄が光っていました。IT授業では机間巡視を行い、戸惑う児童に的確な声掛けを行うなど、安心感を与えていました。さらに、休み時間には児童からの誘いに快く応じ、校庭で交流を深める姿が見られました。空き時間にはプリントの丸付け作業など裏方の活動にも熱心に取り組み、関わった教職員からも多くの感謝の言葉が寄せられています。これらの姿から、学びを深めながら児童との信頼関係を構築する姿がとても高く評価されます。これからの活躍も期待しています。

教育ボランティア活動を受け入れ、様々なご配慮をいただいている泉小学校の先生方に感謝いたします。

令和7年度 委員一覧

～ 教育ボランティア委員会 ～

委員長	大野 歩	教職支援部門教育ボランティア領域GL	山梨県小学校特別教育講座
副委員長	永田 真吾	教職支援部門教育ボランティア領域SL	障害児教育講座
委員	後藤 賢次郎	生活社会教育講座	長島 礼人 科学教育講座
	井坂 健一郎	芸術身体教育講座	渡邊 昭二郎 教育実践創成講座

～ 教職支援室 ～

教職支援部門長	志村 結美
教職支援室室長	望月 主税
教職支援室（教育ボランティア担当）	柴田 幸也・有賀 望

～教育ボランティア学生運営委員会～

委員長	古屋 祥汰（3年）
副委員長	岩下 和紗（3年）
委員	後藤 瑠花（3年）・長谷川 鈴（3年）・伊藤 実優（3年）
	岩澤 胡春（3年）・小林 実々（3年）・山部 果凜（3年）
	南 采希（2年）・土屋 里緒（2年）・渡辺 聖（2年）
	入倉 舞衣（1年）・岩堀 心音（1年）・江川 歩花（1年）
	川上 紗來（1年）・川村 羽澄（1年）・中村 千咲（1年）
	山本 彩葉（1年）

教育ボランティアガイダンスブック2026

編集者	山梨大学教育学部 教職支援室 教育ボランティア委員会 教育ボランティア学生運営委員会
発行・印刷	令和8年3月吉日
発行所	山梨大学教育学部 教職支援室



山梨大学教育学部
附属教育実践総合センター
教職支援室

制作デザイン

芸術身体教育コース

瀧本来実